

圭陵会 平成24年9月

岩手医科大学歯学部同窓会

広報第27号



目次

contents

巻頭言	2
退職にあたって	3
岩手医科大学歯学部はどう変わろうとしているのか — 歯学部改革2年目を迎えて —	4
各支部での活動報告	9
平成23年度活動報告	17
第28回全国歯科大学同窓・校友会学術担当者連絡会 報告	20
12校会長会議	22
平成23年度 第41回学術研修会報告	24
平成24年度 第42回学術研修会報告	30
平成23年度岩手医科大学歯学部同窓会評議員会報告	36
歯学部組織構成員名簿	40
平成23年度学位授与者一覧	43
第105回歯科医師国家試験 大学別合格者状況	46
平成24年度編入・新入生名簿	47
大学役職員名簿	48
歯学部同窓会役員名簿	49
歯学部同窓会支部役員名簿	50
学術研修部員名簿・広報部員名簿	54
休業時歯科医師派遣要項	55
お知らせ	56
編集後記	57

巻 頭 言



岩手医科大学歯学部同窓会

副会長 **村上 正博**
(6期卒)

あれから1年半が経とうとしています。ロンドンオリンピックでのニッポンの活躍に一喜一憂しながら、ともすれば遠い歴史の出来事だと記憶の彼方に押しやられそうですが、被災地の復興はまだまだ置き去りにされています。その節には全国の会員また同窓会支部から多大な義援金をお寄せいただき、被災会員への支援として贈らせていただきました。また今般会計積立金の中からも被害甚大な会員への二次支援として支給させていただきました。会員の皆様方にあらためて感謝を申し上げますと同時に、被災された先生方が一日も早く穏やかな日常を取り戻すことを願っております。

7月7日、21年9ヶ月の長きにわたり采配をとってこられた故大堀勉名誉理事長兼名誉学長の「大学葬」が、2,000人の参列者を迎えた岩手県民会館に於いて盛大かつ厳かに執り行われました。一つの時代が終わり小川彰新理事長兼学長の下での「岩手医科大学」の新しい歴史が始まりました。矢巾への総合移転事業も平成31年には完成予定となっています。医学部の受験生と学生の数も増加の一途をたどり、来年3月には薬学部の第1期生が輩出され、岩手医大の更なる躍進が囑望されています。

しかし一方で、歯学部の元気の無さが問われて久しく、存亡の危機といっても過言ではない現状を全国の同窓生は憂慮しながらその推移を見守っています。特に今年度の入学者数が35名という結果になり、6月に開催された評議員会においても母校を案じた質問・提言・苦言が数多く出されました。受験生と入学者数の減少、国試合格率の低迷等社会構造的な課題も山積しているなか、三浦歯学部長、城会長をはじめとした教職員が、全国を廻りながら受験生確保への協力をお願いしているところです。またハーバード大学とのコラボによる「歯学部改革プロジェクト」が組織されてから2年目に入り、徐々に成果が現れてきているようですが、その現況がレポートとして今号に掲載されておりますのでお目通しいただきたいと思っております。

こういった母校歯学部の苦境を見聞きしながら、われわれ同窓生あるいは同窓会は何を為すべきか。現場の教職員と学生が一体となって取り組んでいる「歯学部改革」のために、今こそ物心両面でのサポートをしていかなければなりません。受験者確保の

ために子弟の歯学部受験勧誘の行脚をしておりますので、各支部における圭陵会関連の会合日程の情報をお寄せください。安心して入学させるためには充実した教育システムと高い国試合格率が不可欠です。そのために現在国試対策支援費として100万円の予算を計上していますが、さらなる増額も検討したいと思います。また教育改革の一貫として、1～6年の各学年10名からなるSociety（ソサイエティ）を形成し、それぞれに2名のTutor（チューター）を配していますが、担当Tutorの献身的な熱意に頼っているところも多々あり、若い教員たちへの支援の仕方も検討したいところです。

歯学部同窓会の一般会計状況は年々悪化の実情にあります。会費納入率の下降傾向は続き、平成23年度は66.3%になりますが、今年度の入学者数の激減が収入減をさらに直撃しております。同窓会独自の活動経費は各担当部署の努力によりすでに削減の限界までできておりますので、会費の納入率のアップを図ること以外に健全な財務状況を維持する方策はありません。年間5,000円の会費を収められない会員はそれほど多いとは思えませんので、産み育ててくれた母校への暖かい眼差しと会への参画意識の不足に起因すると思われれます。各支部におかれましては会員への啓発に力を注いでいただくようお願いいたします。

平成13年度には藤田執行部により同窓会創立30周年（平成12年）記念事業が挙行され、浅田次郎氏を迎えた記念講演も記憶に新しいところです。昨年は40周年の年でありましたが記念事業を企画する状況にありませんでした。日本歯科医師会会員の平均年齢は57歳4ヶ月（平成23度末）ということですので、更に10年後には歯科医師需給バランスも良化される可能性が高いと思われれます。再び元気な姿を取り戻した歯学部の50周年を迎えるため、事情ご賢察の上これまで以上のご支援ご協力を賜りますよう切にお願い申し上げます。

最後になりますが、世界中で異常気象が続き日本列島での地殻変動が取り沙汰されております。会員の皆様方には“その時”への備えを念頭におきながら、それぞれのフィールドでご活躍いただきますようお願い致します。



退職にあたって



前 口腔保健育成学講座口腔保健学分野
教授 米満正美

岩手医科大学歯学部同窓会の先生方にはますますご清栄のことと拝察いたします。

昨年3月の大震災により多大な被害をこうむられた同窓会の先生方には心よりお見舞い申し上げます。津波で診療所と自宅を流されて仮設住宅に住み、仮設の診療所で地域住民のために診療に励んでいる親友と時々話をしますが大変な苦労をされております。一刻も早く復旧することを願わずにはおられません。

さて、私はこの3月末をもちまして定年退職しました。平成7年9月1日付で新設された予防歯科学講座の教授として赴任して以来、歯学部同窓会の先生方には多大なご支援をいただき誠にありがとうございました。発足当時は私と常勤の助手が2人、大学院生1人そして研究捕手の5人でしたが、予防歯科学講座は臨床系ということで定員が増え、この3月末では運用定員の助教1人、大学院生1人と研究捕手を含めると合計9名の医局となりました。予防歯科学（口腔衛生学、口腔保健学など大学によってその呼称は異なりますが）は、国民の健康志向の高揚から“歯科疾患を予防したい”という人々が増加してきていること、高齢社会での口腔ケア、そして全身疾患を有する患者の歯科保健・医療を考慮すると臨床系の講座であることが期待されます。

私の専門は「疫学と地域歯科保健」ですが、平成9年に岩手県歯科医師会、盛岡保健所（当時）管内の市町村と協力して実施した厚生労働科学研究の「8020データバンク構築事業」では同窓生の先生方にも協力いただき立派な成果を上げることができました。その5年後、10年後の追跡調査も行われましたが懐かしい思い出です。

また、東北地方を中心に多くの同窓会支部から講演の依頼を受け、多くの先生方と交流できましたし、入学試験の折には東京や大阪でも「春の教授を囲む会」に温かく迎えてくださいました。心より感謝申し上げます。

学会活動では、当講座で主催した平成16年の第53回日本口腔衛生学会総会、平成19年の第10回日本歯科人間ドック学会総会、そして平成22年の第51回日本歯科医療管理学会総会では多くの同窓会の先生方にも参加いただきましたし、ご支援をいただき成功裏に終えることができました。更には日本口腔衛生学会東北地方会（現在は東北口腔衛生学会となっています）が東北6県の持ち回りで開催されておりますが、こちらにも多数の演題を発表していただきました。重ねてお礼申し上げます。

大学にとって同窓生は歴史であり、宝でもあります。現在、本学歯学部は“ネガティブキャンペーン”や18歳人口の減少などの影響で入学志望者が少なく苦境に立たされておりますが、「同窓生が自分の子を入れたくない大学になってしまったらその大学は終りだ」、というのが私の持論です。医学部、歯学部、薬学部からなる医療系総合大学であり、長い歴史と伝統を有する本学なのにどうしてこのようになっているのか、大学当局と同窓会で開襟して話し合い、真剣に取り組むことを希望いたします。その暁にはきっと明るい未来が来ると信じております。私も平成9年に加入した一同窓生として可能な限り応援し、見守っていく所存です。

最後になりましたが同窓会の益々のご発展を祈念し、お礼の言葉といたします。

岩手医科大学歯学部はどう変わろうとしているのか 歯学部改革2年目を迎えて

歯科保存学講座

浅野明子 (25期卒)

補綴・インプラント学講座

金村清孝 (25期卒)



若手歯科医師の モチベーションの向上

歯科保存学講座

浅野明子 (25期卒)

現在歯学部では、アメリカ・ハーバード大学の永井成美先生を学長顧問に迎え、歯学部改革を進めております。初年度は、Society制度の立ち上げ、カリキュラムの改変、講座再編など抜本的な改革を行ってきました。まだまだ課題は多くはあるものの着実に前進しています。

そして歯学部改革も2年目に突入しました。今年2月の岩手医科大学歯学会で永井先生が講演されましたように歯学部改革の2年目のミッションは“強化”です。その“強化”の重要な鍵のひとつが若手歯科医師のFaculty Development（教育能力の向上）です。大学として、これからの歯科医療界を支える若手歯科医師が、臨床、研究、教育を十分にできる環境を整え、育成しなくてはなりません。

今回、その一環として『常任研究員（旧副手）のケースプレゼンテーションによるComprehensive Care Clinic（包括的診療）のための意見交換』について永井先生からご提案頂きました。

5月28～30日の3日間にわたり永井先生、ハーバード大学のDr. John DaSilva, Dr. Throdros Kaposが来日され、初日から学長、副学長ら、歯学部改革実行メンバーとの意見交換会に始まり、カリキュラム作成会議、チューターの学生指導方法の相談、基礎実習の見学、学生へのレクチャー、矢巾キャンパス訪問と基礎の先生方との意見交換会、ハーバード大学で行われた本学歯学部の学生、大学院生のケースプレゼンテーションの報告会等々、かなりのハー

ドスケジュールでしたが、精力的にご指導をして頂きました。

『常任研究員（旧副手）のケースプレゼンテーションによるComprehensive Care Clinic（包括的診療）のための意見交換』では、補綴・インプラント学講座の若手歯科医師6名がケースプレゼンテーションを行いました。一人につき30分という短い時間でありましたが、Dr. John DaSilva, Dr. Throdros Kaposから、診査・診断から治療計画に至るまで、たくさんご示唆を頂きました。ハーバード大学の学生、大学院生のケースプレゼンテーションはスライドにすると100枚近くあるようです。検査については、口腔内・外所見、全身所見はもちろんのこと、家族背景、社会背景にわたりかなり詳細なところまで行っているそうです。また治療計画も、日本のような保険制度は無いですが、個々の背景を考慮したプランをいくつか提案し、その予知を極めたものでした。彼らは治療に関する論文を多数読んで、エビデンスに基づいて考えている、というお話を聞き、大変感銘を受けました。

この意見交換会を通して、プレゼンをした若手歯科医師だけでなく、この会に参加したDr全員が有意義な時間を共有することができました。参加した2名の若手歯科医師のコメントをご参照頂ければ、有意義な時間であったことはご理解頂けるものと思います。



●改革を通して変わった自分●

補綴・インプラント学講座 山田 優 貴

今回、歯学部改革プロジェクトの一環として、ハーバード大学の先生方と症例検討会をさせて頂きました。外国の方と話す機会も滅多に無い中、突然英語での症例検討をする、というハイレベルな任務を与えられた私は、任務完了っ！！と胸を張って終えたいところでしたが、とてもそう言える結果ではありませんでした。自分の最先端医療に対する知識不足と、経験値の低さを痛感しました。しかしながら、たくさん得るもの、感じるがありました。ハーバード大学の学生のケースプレゼンテーションをスライドで拝見したのですが、検査が詳細であり、治療計画も何通りか提示できるように考えており、とてもハイレベルなものでした。

米国では最先端の医療を積極的に行い、患者も満足し、歯科医師もそれなりの報酬を得られるという確立された社会があります。日本の場合には保険制度があり、特に地方ではいまだ最小限の治療のみ希望する患者が多いように思います。さらに若手歯科医師は大学では無給であるため、高い志と突き進む実行力が無ければ打開できない状況であると感じました。また米国の歯科治療は高額で、誰もが同じような治療を受けることができない、といったことも学びました。その点、どんな患者でも受け入れ、貧富等関係なしに、その人にとってのbestを尽くそうとする日本の歯科医療は愛すべきものであると感じました。この症例検討会を通して学んだこと、吸収したことを踏まえ、米国における歯科治療を選択的に取り入れ、患者が満足できる歯科医療をしていきたいと思えます。

またこの歯学部改革は、国家試験の合格率向上を目指した学生のための改革だけかと思っていましたが、自分たちのような若手歯科医師のためのプログラム、大学院生、臨床研修歯科医師のプログラム、さらに国際協力支援プログラムまでが組み込まれていると知り、今後は楽しみになってきました。

これからも、この改革を通して与えられたチャンスを生かして頑張っていきたいと思えます。

●日本とアメリカにおける症例の捉え方の違いを実感●

補綴・インプラント学講座 吉田 大 徹

最初に、検討会にてご教授いただいた永井先生、John Da Silva先生、Kapos先生、また、発表の機会をくださり準備に協力いただいた多くの先生方に感謝申し上げます。

発表はハーバード大の症例検討会にできるだけ沿った形式で、すべて英語でスライドを作製しなければならず、まとめるのに苦労しましたが、なんとか無事終えることができました。先生方からは治療方針、治療方法の考えの相違点を教えていただき、そのアドバイスは大変興味深く、多くを学ばせていただきました。

症例検討会を通して、気がついたことは「私が（私達が）思い描く治療方針は日本の保険制度に大きな影響をうけている」ということです。1つの例をあげると、「後5年は保存可能な歯」に対して5年後の抜歯、増歯処置の可能性を考慮に入れるのが日本の考え方であるのに対し、「5年後にはダメになる歯」は今抜歯するのがアメリカ的考え方でした。アドバイスいただいた治療方針は、患者様の口腔内環境の長期間の安定を可能とし、患者様のQOLの向上に大きく寄与するものでした。

また、アドバイスいただいた最先端の治療に大変納得できたのと同時に、金銭的負担が少なく、より多くの患者様の口腔内環境の回復を可能としている日本の保険制度はすばらしいものであると感じました。

これからは、保険制度にとらわれず広い視野から治療方針を考え、患者様とよく相談して一人一人にとって最善の医療を提供できるように努めていきたいと思えます。





講義、実習カリキュラムの変更に関して

補綴・インプラント学講座

金村 清孝 (25期卒)

アメリカ・ハーバード大学における教育システムの概念と形式を導入した岩手医科大学歯学部改革プロジェクトについては、新聞紙上をはじめ、様々な形で同窓会の先生方にも情報が届いていると思います。一方で、「何が変化しているのか」「講義や実習はどうか変わったのか？」など、具体的な内容はわからない会員の先生方が多いと思います。

そこで、歯学部改革プロジェクトにおけるカリキュラム変更の詳細について講義、実習の具体例を呈示しながら説明させていただきます。

1. コースの編制

現在3年前期までは矢巾キャンパスを中心に基礎科目、3年後期からは内丸キャンパスで主に臨床科目を行っています。(図1参照)内丸での講義、実習は、大きく6つのコースに分かれています。このコースは治療の流れにそって組まれています。

1) IDP (Introduction to the Dental Patient):

患者を診るためのイントロダクション

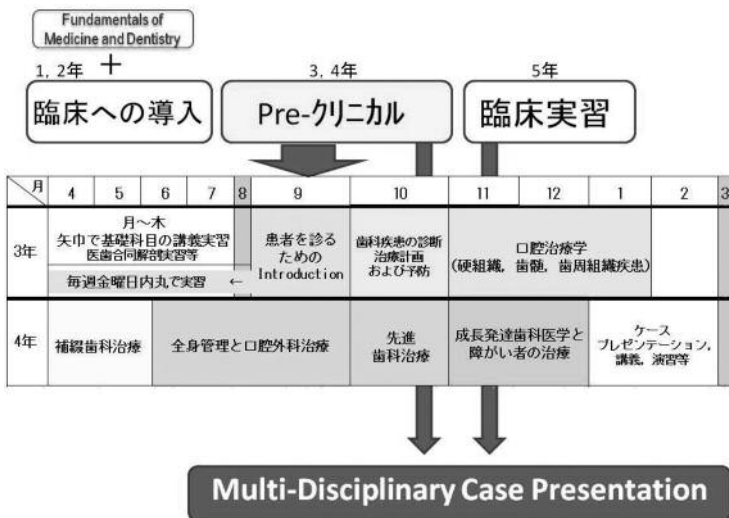


図1

- 2) DTP (Diagnosis, Treatment Planning Prevention): 診断, 治療計画, 予防
- 3) TxAD (Treatment of the Active Disease): 口腔治療学 (硬組織, 歯髄, 歯周疾患)
- 4) FR (Final Restoration): 補綴歯科治療
- 5) AST (Advanced Surgical Treatment): 全身管理と口腔外科治療
- 6) AD (Advanced Dentistry): 先進歯科医学
- 7) TxCh (Treatment of the Child and Adolescent): 成長発達歯科医学

それぞれのコースを全体としてとらえると、初診の医療面接、診断、治療へと治療の流れに沿って組まれていることがわかります。(図2, 3参照)

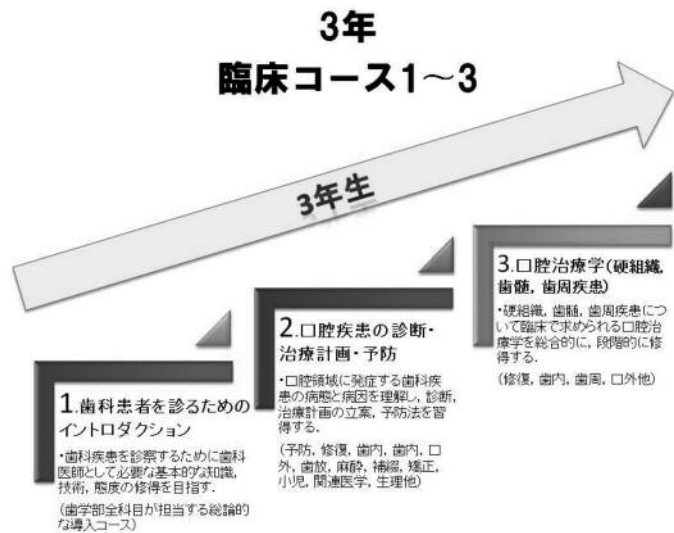


図2

2. 各コースの詳細

4年生ではこれまで月曜日には有床義歯、火曜日には冠橋義歯、水曜日には歯内療法のように、様々な科目が同時に進行するように組まれていました。今回の改革では、ある時期に集中的に1つの科目を学習するコース形式となり、午前の講義内容を午後の実習するように構成されています(図4)。例えば、補綴歯科治療(Final Restoration)について説明します。大きな流れとしては、3ヶ月間で補綴歯科総論、冠橋義歯、インプラント、全部床、部分床の順にコースが編成されています。午前中に支台歯形成に関する講義を行い、午後は支台歯形成実習を行います。翌日は印

象採得，その翌日は咬合採得と進行します。すなわち，治療の流れに沿った講義，実習が組み立てられていることで学生は知識と技術を合わせて学ぶことが可能となります。インプラントの講義，埋入実習も組み立てられており，現在問題視されているインプラントの問題に対しても「大学の教育」としてプログラムに組み込み，積極的に取り組んでいます。また補綴に欠かせない歯科材料に関する講義も歯科理工学の教員と一緒に進めるよう効果的に配置しています。

教員側のマンパワーと教場です。教員は実習，講義を行っている期間は外来診療ができず，患者様への影響は否めませんが，教育機関である大学病院の性格を説明することでほとんどのケースで理解して頂いております。これは5年次臨床実習で行われている診療参加型臨床実習でも同様です（臨床実習については別の機会にご報告させて頂きたいと思えます）。また臨床教授，非常勤講師の先生方には実習指導にご参加頂き，力強いバックアップを頂いております。教場については綿密な調整のもと，限られたスペースを有効活用しながら今のところ大きな問題なく進んでおります。



図3

補綴歯科治療 5週目 Brによる治療、Implantの基本

	5/7(月)	5/8(火)	5/9(水)	5/10(木)	5/11(金)
1	Br. 講義 接着ブリッジ	Cr. Br. 講義: 審美1 (ポーセレンラミネートベニア, PFM)	Cr. Br. 中間筆記試験	Implant 講義 基本構造, 診査診断, 治療計画	治療計画立案実習1
2	補足実習 (進行が遅い場合の Catch up time)	Cr. Br. 講義: 審美2 (CAD/CAM, セラミック)	自主学習	Implant 講義 外科術式	
3	Br. 実習 接着Br.形成	Cr. 実習 ポーセレンラミネートベニア形成	実習試験 上顎臼歯部Br. 支台歯形成	講義 インプラント用材料	Implant 埋入実習
4				Implant 埋入実習	

図4

短期間に集中的に行われる講義，実習で，学生は指導教員と密に接することが多くなり，より関係を深めることで教育的効果も大きいと思われれます。一方，このシステムを稼働させるに当たっての問題は，

3. 科目の枠を超えたカリキュラム構成
これまでのカリキュラムは各講座単位で教授が中心に作り上げていましたが，今回の改革では，各コースに「ディレクター」が配置され，コースにおける講義，実習をコーディネートする役割を果たしています。これにより必要に応じて基礎講座や他分野への講義依頼（例えばAST（全身管理と口腔外科治療）において病理学，歯科放射線学の教員が講義を担当する）しやすくなりました。また，講義の重複部分の整理がされ，カリキュラムをスリム化できました。補綴，保存修復系の実習（基礎・臨床実習とも）には歯科技工士の先生方にも参加頂き，きめ細かな指導が行えるようになりました。

4. ハーバード大型から岩手医大型へ
このシステムで育った卒業生は，日本の他大学にない教育システムを経験しているわけです。卒業生が母校に誇りを持ち，卒後臨床研修，その後の研鑽を本学にて積み盛り上げてくれることを希望します。しかし，卒業生が本学の教育を全国の歯科大学に広めることも岩手医大の存在価値を示すことになるでしょう。将来のリーダー育成も本プロジェクトの大きな目標です。本学歯学部はハーバード大型のシステムを取り入れ大きな一歩を踏み出しました。今後はさらにこのシステムを岩手医大型として発展させ，改革プロジェクトが進行するものと確信しております。



学生は、ルーペを使用しながら形成実習等を行い、拡大視野下での臨床に違和感なく対応できる準備を進めています。



最新の医療機器（写真はクリスタルアイを用いた歯の色調に関する実習）を取り入れ、今後急速なデジタル化が予想される歯科医療分野への対応と同時に、学生のモチベーションを高める工夫をしています。

各支部での活動報告

道央支部(みちのく会)

定例総会・懇親会

29期 白鳥 信一

平成23年5月28日(土)午後5時30分より、ホテルニューオータニイン札幌 2F 双葉の間において新出 英幸専務理事(12期)の司会により道央支部定例総会が開催されました。阿部 年秀副支部長(13期)による開会の辞の後、平成23年3月11日に発生した東日本大震災で亡くなられた方々に黙祷が捧げられ、箱木 孝則支部長(11期)より挨拶が述べられました。

その後、執行部一任により議長に佐々木 宇一先生(8期)が選出され、書記に伊藤 公一先生(26期)、議事録署名人に野 隆広先生(22期)が指名されました。

議長挨拶の後、平成22年度の同会の各活動に関する報告事項ならびに決算報告が行われ、その中の道歯報告では今回の震災において日歯の依頼を受け被災地に行かれた高松 隆常先生(2期)、山田 聖弥先生(9期)に対して感謝が述べられました。

その後、平成23年度の事業計画ならびに会計予算案について協議が行われ、全員一致で承認されました。最後に太田 陽一副支部長(14期)の閉会の辞をもって無事に総会は終了しました。

総会終了後、集合写真の撮影が行われ、その後同ホテルの北斗の間に場所を移し懇親会が開催されました。新井 桂先生(14期)の司会により、箱木 孝則支部長の挨拶の後、山田 聖弥先生より震災支援活動報告があり4月17日~24日までの気仙沼での活動報告がなされました。

その後、大口 正明先生(1期)の乾杯の御発声



で懇親会は開宴しました。途中、後藤 伸司先生(6期)より道歯会長選挙の報告と会長選挙のお礼の言葉がありました。

その後、2名の新規開業会員の挨拶《浦本 大三先生(31期)、佐藤 大先生(32期)》、新入会員挨拶《呉 千絵子先生(41期)》が行われ、終始なごやかな雰囲気で行われました。

最後に中野 耕輔先生(1期)のメの乾杯にて閉宴しました。

懇親会終了後、会場をオークバーに移し二次会が開催されました。昔話や趣味の話に花が咲きあつという間に時間が過ぎ楽しい宴は終了しました。

学術講演会

23期 角江 信彦

平成23年10月22日(土)、岩手医科大学歯学部 歯科補綴学講座 冠橋義歯補綴学分野 准教授 武部 純先生(岩手医科大学歯学部20期卒)を招いて札幌第一ホテルにて学術講演会が行われました。当日はあいにく雨天でしたがお忙しい中35名の会員の先生のご出席を賜り盛会のうちに終えることができました。

当日の演題は「一顎補綴治療の実際ーこのような症例に対してどのようにアプローチしますか?」ということで日常の臨床では余り馴染みがない分野だったため、多くの先生が初めて目にするような症例がたくさん提示されました。われわれ開業医が手におえないような顎半側切除や舌の切除により下顎の偏位が起きたり嚥下機能が失われたりした患者さん、上顎癌により鼻腔と口腔が交通してしまい発音や摂食嚥下に支障をきたした患者さんのQOLをどのように維持していったか武部先生の情熱が伝わっ



てくるような講演でした。特に舌を失った患者さんへのアプローチは全国的に見ても症例数が多くなく文献も少ないため試行錯誤の末に患者さんが徐々に嚙下できるようになったことは同じ歯科医師として感嘆いたしました。

当日、武部先生のご都合により懇親会は行われず、同期の先生、バトミントン部のOB、二補綴OBによる食事会が催されました。体調が不十分な中、私たち支部会員との約束を守ってくださった武部先生のお人柄にあらためて感謝の言葉を贈りたいと思います。

平成23年度 保険講習会報告

22期 野 隆 広

平成23年12月3日（土）午後4：30より札幌グランドホテルにて保険講習会が開催されました。講師は社保審査員をされている後藤 伸司先生（6期）で、出席者は38名でした。

保険講習会に先立ち、中川 英俊先生（14期）に医療管理講習会を行って頂きました。最近の電話相談から、

- ①インプラント関係のトラブル
- ②窓口負担金が多すぎる（子供 1～2分の診療で初診時6,000円）のではないかという相談
- ③広告の規制（保健所に業務停止命令が出せる権限が与えられた）について

以上、三点について懇切丁寧にお話頂きました。

特に①に関しては、訴訟に至った例を数例、ご紹介頂きました。契約書を交わす、医療賠償責任保険に加入する等の措置を講じた上、インプラントに着手する際は、その時点で保険外診療となるため、保険診療が全て終了してから着手し、混合診療と解釈されないようにと注意を促しておられました。

電話相談で名前が上がってくる医療機関は一部に集中しており、保険請求にも問題のある機関が多いとの事でした。正しい請求を行うことがこのようなトラブルを避ける為の第一歩かもしれません。

続いて、保険講習会に移りました。

次年度より電子媒体あるいはオンライン請求を行っている保険医療機関は、請求する各点数の算定日を記載することになったことが最初に説明されました。これにより、従来よりも各点数の算定に際してより注意を払わなければいけなくなりました。具体例として、歯管と歯面清掃加算、義管と義管の困難加算、同日での歯周組織検査とP急発切開の算定などです。仮に1回目の歯周組織検査が査定となった場合、スケーリングはもちろんのこと、その後の

SRPなどの基本治療・歯周外科までもが査定される、あるいは算定したくても算定出来ないケースも考えられます。よりしっかりと治療計画の立案が必要となるようです。（内容には現時点とは多少異なる点があります。）

カルテ記載においては、レセコンや電子カルテなど誰でも打ち出し可能なものに関しては、保険医が確認したという意味で、署名または記名・捺印が必要であり、署名と記名にはそれぞれ定義があるそうです。また、次年度より新規個別指導が復活すること、義管の算定に関する返戻が多いこと、歯周治療の流れの再確認等々、多岐にわたり懇切丁寧にお話頂きました。

来年度は改定年度となります。何がどう変わるか具体的には決まっていないようですが、このような保険講習会でお伝え出来ればと思っております。

最後になりますが、お忙しいところ快く講師を引き受けて下さった、後藤 伸司先生・中川 英俊先生に感謝申し上げますとともに、風雪の強いあいにくの天気ではありましたが、多くの会員の先生方にご参集賜りましたことを深く感謝申し上げます。重ねて今後ともご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



函館支部

岩手医科大学歯学部同窓会函館支部活動報告

圭函会支部長	7期	永坂	信
副支部長	10期	中塚	道郎
	12期	木葉	篤
幹事長	17期	澤木	健

函館支部（圭函会）は7期の永坂 信支部長を筆頭に40名の会員がおり、函館及びその近郊で活躍されております。

主な年間行事は、新年会、総会、夏のビール会、ゴルフ会と秋の一泊旅行ですが、一泊旅行のみ歯学部単独で行っており他は医学部同窓会と合同で行っております。

中でも一泊旅行は先輩、後輩入り乱れて無礼講で遅くまで飲み明かす圭函会の名物とも言える恒例の楽しい行事です。

また、平成23年度には新年会の際に、岩手医科大学解剖学講座機能形態学分野 藤村 朗教授をお招きして大震災についてのお話をしていただき、当時の生々しい状況や、大学・歯科医師会の動き、さらには経験された問題点など、リアルなお話をしていただき大変な好評でありました。

現在、函館歯科医師会は永坂先生が会長として精力的に会務を執行され、また10期中塚道郎先生が専務理事として息の合ったサポート振りを発揮されており、さらには17期の澤木 健先生・21期の遠藤岳夫先生・22期の仲屋正樹先生がそれぞれ理事の役職に就かれており会員の為にご尽力なされております。

また、4期の上田 昇先生は北海道歯科医師会の常務理事をなされており、函館～札幌間を頻繁に行き来され、歯科医師会のために身を削って頑張っておられます。



青森県支部(青陵会)

青陵会創立30周年記念祝賀会

16期 松本 靖宏

岩手医科大学歯学部青森県同窓会がその呼称を「青陵会」としたのは平成3年。現在の会員は171名を数え、全国でも有数の大きな支部であろうと思う。その執行部は現在、3期卒の山田芳夫会長の下、各担当理事を中心に会員のご協力を得ながら精力的に会務に勤しんでいる。

去る5月12日土曜日、青森国際ホテルにて平成24年度総会を開会しその後の学術講演会では、母校から補綴・インプラント学講座の新教授に昇任された近藤尚知先生をお招きし、「トップアスリートが歯科医師に求めるもの」と題してご講演いただいた。教授としては初ということでしたので、参加者は緊張して拝聴していた。個人的には親子で参加していたというのも緊張の要因かと思った。

話は前後して、講演会に先立つ総会で決定したことが、来る平成25年に青陵会創立30周年記念祝賀会を挙げる事となった。前回の20周年は大堀勉理事長、坂巻公男歯学部長（いずれも当時）、その他多くのご来賓をご招待して盛大に開催されたが、今回はさらに素晴らしいものにしようとして特別委員会を立ち上げて進めるという決議を採択した。これにより、その委員会を祝賀会部門、講演会部門、記念誌部門に分け、それぞれにチーフと委員を配置し三位一体で会を成功させようとスタートした。

我々の小さな努力が母校の発展に少しでもお役に立てれば、これに勝る喜びはない。母校が未来永劫存続することを祈念し、最後に当会会則第2条をご紹介したい。「本会は会員相互の親睦を旨とし、学識の向上を図り、岩手医科大学の発展に寄与することを目的とする」





秋田県支部(秋盛会)

19期 立花美香

秋盛会は、秋田県下歯科大学同窓会でも有数の人数を誇り120名を超える会員数を有しています。最近、若い先生方の出席も多くなり、講演会等行っております。

平成23年度第1回学術講演会は、7月2日(土)秋田キャッスルホテルにて、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 社会医療科学講座 口腔保健学 準教授 飯島洋一先生より「エビデンスに基づく予防歯科 -エビデンスを再考する-」-フッ化物応用法の機序と効果、キシリトール、原因菌としてのミュータンス、特定保健用食品の効果を中心に-と題して講演いただきました。今回は予防ということでしたので、会員だけでなく各医院のスタッフにも多く呼びかけ、大勢の方々の参加があり大盛況の講演会でした。

第2回学術講演会は、12月3日(土)本学4期卒大仙市開業 井関時男先生より「私の総義歯学」と題して、ご講演いただきました。会員発表ということで大変親しみやすい講演で、すぐにでも実践できる内容でした。その後、忘年会となり、毎年恒例のビンゴ大会をして、ここ数年は重い景品を持って二次会に行くという楽しい夜を過ごしました。

第3回学術講演会は、3月24日(土)本学15期卒秋田市開業 立花透先生より「平成24年度診療報酬点数表 改正点の解説」と題して、ご講演いただきました。改正点も多く、会員の先生方の関心度も高く、質疑応答も活発な講演会でした。

秋にはゴルフコンペも行い、他大学の先生方もお招きして交流も深めています。

年2回の会報を発行し、会員近況、新入会員の紹介等、また会員の写真が表紙を飾り楽しいものに出上がっています。

平成24年度は、伊藤会長から井関会長へかわり、新しいカラーで運営されるものと思います。



宮城県支部(圭歯会)

専務理事 18期 杉山 豊

岩手医科大歯学部宮城県同窓会(圭歯会)は平成24年2月1日現在で339名の会員(うち、開業会員は195名)を数えます。村上正博先生(6期)が会長となり、4年が経過しましたが、活発な活動しております。昨年3月の東日本大震災により大きな打撃を受けましたが、会員一丸となり会を盛り上げています。以下にその活動の一端を紹介いたします。

[理事会]

毎月開催している理事会は、年間行事の企画、運営の他、同窓会本部との連携各歯科医師会や他大学の同窓会との連携を図り、精力的に活動しています。

[平成23年度第1回勉強会]

日時:平成23年7月9日(土)

会場:宮城県歯科医師会館 81名参加

「機能面からスプリントを考える」と題して、東北大学歯学部研究科口腔システム補綴学分野教授の佐々木啓一先生に御講演を頂きました。一般開業医

にもわかりやすく解説いただきました。

[平成23年度新入会員歓迎会]

日時：平成23年7月9日（土）

会場：江陽グランドホテル 70名参加

今年度は6名の新入会員でありました。

佐々木啓一先生を含めて新入会員を囲んだ歓迎会は和やかに進行しました。

[ファミリー企画]

日時：平成23年9月11日（日）

会場：秋保天守閣自然公園「木の家」40名参加

毎年、子供たちの夏休みに合わせて、家族ぐるみのお楽しみ会を企画していますが、今年度は大人29名、子供11の参加で、子供たちはバーベキュー、大人たちはビールにダッジオープン料理に舌鼓を打ちながら、楽しい時間を共に過ごしました。

[第1回社保講習会]

日時：23年10月1日（土）

会場：宮城県歯科医師会館 54名参加

講師を宮城県歯科医師会社保委員長谷武先生（16期）、コメンテーターに会田則夫先生（14期）にお願いし、社保講習会を開催しました。

[第23回臨床懇話会]

日時：平成23年12月3日（土）

会場：宮城県歯科医師会館 81名参加

今年度は猪苗代盛昭先生（1期）、柏崎潤先生（19期）、佐久間陽子先生（35期）の3名の先生がご発表されました。

[忘年会、クリスマス会、還暦祝い]

日時：平成23年12月3日（土）

場所：江陽グランドホテル 65名参加

毎年、「家族も一緒」を合言葉に、忘年会というよりクリスマスパーティーの雰囲気楽しく開催されました。同時に還暦祝いも行われ、対象者10名中5名が出席されました。

[平成23年度総会、第2回勉強会]

日時：平成24年3月24日（土）

場所：宮城県歯科医師会館 31名出席

東北大学歯学部大学院歯学研究科口腔生物学講座口腔生化学分野教授・高橋信博先生をお招きして、「歯科用特定保健用食品（歯科用トクホ）－歯科疾患予防ツールとしての可能性を探る－」の演題でご講演いただきました。

[平成24年度 第1回勉強会、新入会員歓迎会]

日時：平成24年7月7日（土）

岩手医科大学歯学部城教授をお招きして局所麻酔の講演会を予定しています。また同日新入会員の歓迎会も開催いたします。

[終りに]

東日本大震災は我々にあまりにも多くの悲しみを

もたらしました。しかし、会として甚大な被害を被った会員に対して、お見舞い金を迅速に支給しました。皆それぞれが被災した会員や周りの方々を支援するために労力を惜しみませんでした。1年経過して元の生活に戻りつつありますが、会の結束がそのスピードを早めたものと確信しております。

忘れることのできない3・11ですが、逆境にあってもより深い絆を深め、医療人として、岩手医科大学の卒業生として社会貢献をしていく所存です。

山形県支部

第18期 日塔睦雄

岩手医科大学歯学部山形県同窓会は5月12日（土）午後4時から、かみのやま温泉「葉山館」にて平成24年度総会・学術講演会を開催しました。斎藤純一会長の挨拶にはじまり、会務報告のあと、23年度決算、24年度事業計画および予算案が承認されました。また当日は本学同窓会より武田泰典教授がおいでになり、「岩手医科大学の現状について」という内容でお話があり、今後の歯科医師国家試験に対する大学の方針や良質な学生の確保のための取り組み等について説明されました。

引き続き学術講演会が、本学歯学部補綴・インプラント学講座の鬼原英道講師をお迎えし、「インプラント治療のトラブル症例」というテーマで行われました。つい先日もNHKのクローズアップ現代で特集を組まれるなど、話題の多いインプラント治療についての講演は、参加者全員が非常に興味を持って聴講していました。講演のなかで、インプラントのトラブルについて国民生活センターでは5年間で約2000件の相談が寄せられており、このような事象の原因として、歯科医師のモラルの低下、十分な知識や技術を持たない歯科医師による安易なインプラント治療が考えられるとしています。また、大学病院に来院した症例から何故失敗に陥ったのか、その理由を推測するとともに、どのようにリカバリーをしているのかを豊富な写真とレントゲンから説明されていました。またケースプレゼンテーションとして、「インプラント周囲炎」「神経麻痺」「上顎洞関連=上顎洞炎および上顎洞迷入」「遠隔組織の異常」「術中のトラブル」「原因が不明であるが、本人の違和感が強く撤去後症状が緩和されたケース」などについてそれぞれ詳しく解説していただきました。

講演会終了後は、場所を隣接する「古窯」に移し懇親会が開催されました。懇親会では、講師の鬼原先生を囲みながら、インプラントに対する様々な意

見が会員からも多く寄せられ、たいへん盛り上がった雰囲気の中で閉会を迎えました。



栃木県支部

専務理事 21期 手塚 茂

平成24年4月15日、岩手医科大学歯学部栃木県同窓会総会を開催いたしました。

例年、総会前に講師の先生をお招きしてミニセミナーを開催しておりますが、今年は趣向を変えて弁護士荒井雅彦先生に「スタッフの採用・解雇に関して」と題してお話を伺いました。

荒井先生は五月女会長とは高校の同級生という間柄でもあり、我々がスタッフを雇用する際に注意すべき点や、解雇に関しての規定、懲戒解雇、退職、等に関して専門的なお話を解りやすくユーモアを交えてお話され、非常に参考に為るセミナーで有りました。

「歯科関係以外のセミナーも面白かったね。」というのが会員の感想でした。他の支部の先生方もこういった催しを企画されてみては如何でしょうか。

栃木県では講演会・総会・忘年会はどうしても県都宇都宮で開催されることが多く、県北や県南の会員の先生方のご参加が低調になりがちなので、本会では会場を県北や県南に移動しての移動例会を行うように努めております。これも支部活動を活発にするひとつの手段ではないでしょうか。

昨年度は11月に、本学歯学部予防歯科学 米満正美教授をお招きしての講演会を行いました。「口臭患者の歯科治療」と云う演題で数多くの症例を見せて頂き、興味深いお話をお聞きすることが出来ました。懇親会では母校の現状や今後の教育改革について等、我々卒業生も関心の高い話題に熱い議論が展開されました。

12月には栃木県歯科医師会 柴田 勝会長をお招きして恒例の忘年会を行いました。現在、会員数で

は他大学に引けを取ってしまう本会ですが、各支部においては多数の本会会員が審査委員であったり、理事であったりと大勢活躍をいたしており、県歯科医師会とも良好な関係を築いております。

今年は10月に、昨年震災で開催延期となりました「関東甲信越ブロック大会」が千葉県主催で開催されます。栃木県支部一同楽しみにしておりますので千葉県支部の先生方、宜しくお願い致します。



米満教授講演会



平成23年忘年会



平成24年総会

東京都支部

副会長兼専務 14期 松村 猛

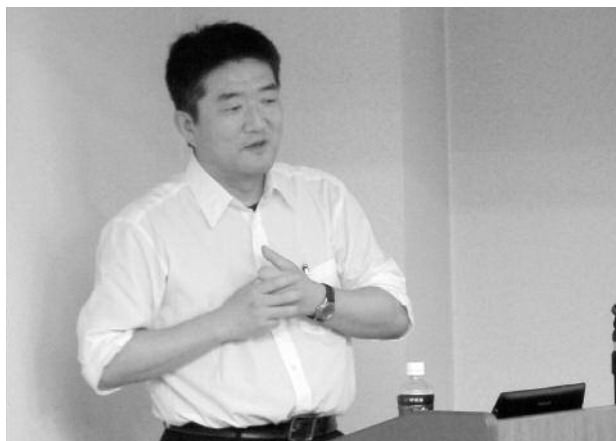
24年6月16日（土）渋谷歯科医師会館にて総会、学術講演会が行われました。

総会では会計報告、事業報告が行われました。また当会では独自に震災の復興へ役立てて頂くために「岩医大歯東京同窓会義援金の会」という口座を開き振り込み用紙を随時会員へ発送しております。この支援は当分続けて行くこととなっておりますが成果が出てきているとの報告がありました。また、10月18日に行われる関東甲信越ブロックの支部大会が千葉で行われることの確認と参加者が募られました。

総会終了後、本学歯科保存学講座う蝕治療学分野野田 守教授よりグラスアイオノマーセメントについてご講演していただきました。最近では日本での需要がなくなってきたり発展途上の海外での販売が盛んになりつつあるとのことでした。日本では光重合レジンが全盛であることが一因ではありますが、フッ素除放性の効果のう蝕予防への貢献度には目を見張るものでした。また練和と充填の煩わしさもカプセルをアマルガム練和器を使えるように改良したり、練和したカプセルをガンタイプの充填器に専用チップを付けて使用できるように開発されたことにも感心させられました。参加した会員からも高く評価されました。

また、本学歯学部教育の大改革が進んでいることを報告していただきました。詰め込み教育よりも臨床も重視していくことで国家試験の臨床実地問題の正解率が飛躍的に伸びたとのことでした。是非これから期待できる本学歯学部へ卒業生の子弟入学が増えることを城同窓会会長はじめ本学が望んでいるとの熱いメッセージをいただきました。

恒例の懇親会は北海道渋谷店にて野田教授を囲ん



で盛大に開催されました。2時間飲み放題との誘惑についついペースが速くなり、渋谷の若者に負けじと学生時代の盛岡のような飲み方をしていた先生もいらっしやいました。そのため靴の履き間違い、背広の間違いなど近年なかったような現象が起こっていたことが少しうれしかった幹事の私でした。

どこの支部でもそうなのでしょうが、若い先生方の参加が少ないことが非常に残念です。青春時代を盛岡で過ごした同窓生なのですから、年に数回でも集まろうではありませんか。参加してみれば必ずみんな暖かく迎えてくれます。そして有意義な情報が手に入ることは確実です。

参加者

1期 小室 昭夫 先生, 1期 加藤 健一 先生,
2期 仙田 徹 先生, 2期 安成 宗一 先生,
3期 近藤 秀男 先生, 6期 神垣 博義 先生,
8期 田中 英一 先生, 8期 沼口 隆二 先生,
8期 水野 重美 先生, 14期 松村 猛 先生,
16期 村上 正幸 先生, 20期 梶村 幸市 先生,
21期 梶村たまき 先生, 32期 矢作 理花 先生,
41期 横田 香織 先生

今回初参加の21期 梶村たまき先生, 32期 矢作理花先生 41期 横田香織先生ありがとうございました。是非同期の先生やお知り合いの先生を誘っていただければ幸いです。

新潟県支部(新盛会)

12期 佐久間 英 治

毎年2回（初夏と初冬）の総会を新潟市内のホテルで開催するのが主な行事です。総会、講演会、懇親会、（2次会）がお決まりのコースです。

平成23年度の前期総会は、大震災直後だったので講演会を行わず、震災の協議を行いました。まず黙祷に始まり、卒業期ごとに被害と支援の状況を集まった会員に報告してもらいました。新潟県支部として過去二度の災害でお世話になった同窓会関東ブロックと、同窓会本部に義援金を出すことを決議しました。

後期総会は、支部長会議と評議員会の報告などを行いました。

引き継ぎ、講演会を行いました。演者は本学9期生である藤村朗先生です。（岩手医科大学解剖学講座機能形態学分野特任教授）演題は『東日本大震災における 身元照合作業の現実』でした。内容は実際に検死に当たられた体験を基に、その問題点、困

難性、有用性を判りやすく解説していただきました。その後、先生の専門分野である「毛細リンパ管の走行状態」について説明していただきました。さらに大学の現状、改革についてもお話いただきました。

以上23年度の活動報告です。今後の活動予定ははっきり決定していませんが、これまでの継続になると思います。以前はバス旅行や温泉旅館での総会を行っており、その復活も会員親睦のためには良いのかもしれない。



平成23年度活動報告

庶務部

庶務部長
佐藤 忠朋

1. 事業

- 5月29日(日) 第40回学術研修会
- 8月20日(土)～21日(日)
第27回全国歯科大学学術担当者連絡会
(南館, ホテル名古屋ガーデンパレス)
- 10月13日(木) 広報第26号発行
- 11月20日(日) 第41回学術研修会(岩手県歯科医師会館)

2. 会議

[理事会・評議員会・総会]

- 7月2日(土) 会計監査(同窓会会議室)
常任理事会
理事会
- 8月6日(土) 支部長会(アルカディア市ヶ谷)
評議員会・総会
懇親会
- 1月28日(土) 常任理事会(歯学部会議室)
新年会

[部会]

(各部会より)

3. 支部との交流会

- 9月7日(水) 日歯代議員会を囲む会(藤田顧問)
- 10月8日(土) 兵庫県支部・大阪支部との交換会
(城, 神戸ポートタワーホテル)
- 10月22日(土) 青陵会秋季学術講演会
(城, ベストウエスタンホテルニューシティー弘前)
- 11月19日(土) 山形県同窓会(城, 天童温泉ほほえみの宿「滝の湯」)

- 1月21日(土) 岩手県同窓会新年会(佐藤, 盛岡グランドホテル)

4. 他大学同窓会・日歯との交流

- 7月22日(金) 12校会長懇話会(神垣, 都市センターホテル)
 - 7月23日(土) 第58回全国歯科大学同窓・校友会懇話会
主管: 東京歯科大学同窓会(城, 田中, 神垣, 東京ドームホテル)
 - 9月25日(日) 12校会議ならびに日歯会長の時局講演会
(城, 田中, 神垣, 安成, ホテルグランドパレス)
 - 10月1日(土) 日大歯学部大塚総長・越川歯学部長就任祝賀会
(城, 東京ドームホテル)
 - 11月5日(土) 第1回全国歯科大学同窓会・校友会日歯連盟参与会議
(神垣, ホテルグランドヒル市ヶ谷)
 - 11月20日(日) 日大松戸歯学部40年を祝う会
(田中, 東京ドームホテル)
 - 11月26日(土) 大阪歯科大学創立100周年記念式典
(城, 大阪国際会議場・リーガロイヤルホテル)
 - 12月18日(土) 12校会長会(城, ホテルグランドパレス)
 - 3月25日(日) 12校会議ならびに日歯会長の時局講演会
(城, 田中, 松村, 仙田, 安成, ホテルグランドパレス)
- ### 5. その他の交流
- 11月20日(日) 桜井参議院議員時局講演会(岩手県歯科医師会館)
 - 1月26日(木) 新会員(42期)との懇談会(歯学部5F講義室)

会 計 部

会計部長
村上 正 博

- 1 会費徴収進捗状況（事務局から納入状況調資料添付）
- 2 新しい会費徴収方法へ対応可能な支部から移行し、さらなる会費徴収率アップに努めた
- 3 東日本大震災被災会員への対応として、会費減免をおこなった
また、被災学生への支援を本学と連携しておこなった
- 4 国家試験合格率向上のために、学生教育支援費から援助した

広 報 部

広報部長
三 善 潤

発行物

- 平成23年4月11日 ニュースレター 発送
（発行日は3月10日、東日本大震災の影響で発送遅れ）
- 平成23年10月13日 広報第26号 発行
- 平成24年3月15日 ニュースレター 発行
（予定）

会議

※開催なし（広報部員間メール等で対応）

同窓会HPへの情報掲載について

- 「東日本大震災に係る会員安否情報」（随時）
- 「役員会議事録」（同窓会員HP）
- 「非難住宅提供情報」（同窓会員HP）
- 「震災により亡くなられた会員名簿」（同窓会員HP）
- 「参議院議員・桜井充先生時局講演会」報告（同窓会員HP）
- 「被災者雇用開発助成金のご案内」
- 「学術研修会」報告および予告（動画配信）
- 「メディア記事」（歯学部改革等）
- 「同窓会広報誌」および「ニュースレター」

他

学術研修部

学術研修部長
中 野 廣 一

第40回学術研修会

日 時 平成23年5月29日（日）9：50～15：00

会 場 岩手医科大学歯学部4階講堂

講 演 I. 10：00～11：50

講師 ^{なか い けん じ} 中居 賢司 先生

（岩手医科大学歯学部総合歯科学講座
歯科内科学分野教授）

演題 有病者の歯科診療に必要な内科疾患診療の最新の進歩

有病者の歯科診療，口腔医学，内科疾患診療の進歩，歯学教育，海外の歯科医療の現状

II. ランチョンセミナー 12：00～12：50

講師 ^{や え が し たかし} 八重柏 隆 先生

（岩手医科大学歯学部口腔機能保存学講座
歯周病学分野准教授）

演題 うまくいってますか？ 歯周治療
歯周治療，診査，診断，治療計画，治療指針

III. 13:00～15:00

講師 ^{なるいし こうじ} 成石 浩司 先生

（岩手医科大学歯学部口腔機能保存学講座
歯内療法学分野准教授）

演題 歯内・歯周疾患を“科学”する
歯周病のバイオロジー，根尖性歯周炎のバイオロジー，歯内・歯周治療は全身を守る，歯周病の血液検査は臨床で使えるか，故きを温ねて新しきを知る歯内療法

参加人数 歯科医師32名，学内歯科医師10名，スタッフ19名，学生1名，研修医49名，他大
学招待者（全国歯科大学学術研修会枠）1名，学術研修部員19名 総計131名

第41回学術研修会

日 時 平成23年11月20日（日）9：50～15：00

会 場 岩手県歯科医師会館8020プラザ

講 演 I. 10：00～11：50 13：00～15：00

講師 ^{かしわだ としあき} 柏田 聡明 先生

(東京医科歯科大学歯学部臨床教授)
 演題 咬合崩壊を防ぐための補綴修復
 治療

－超高齢社会で求められるパラ
 タイムシフト－

II. ランチョンセミナー 12:00~12:50

講師 あおむら 青村 ともゆき 知幸 先生

(岩手医科大学歯学部口腔外科学講座
 顎口腔外科学分野助教)

演題 開口障害に対する考え方と対処法

参加人数 歯科医師71名, 学内歯科医師6名, スタッ
 ッフ8名, 学生0名, 研修医21名, 他大
 学招待者(全国歯科大学学術研修会卒)
 3名, 学術研修部員23名 総計132名

○学術研修会カラー案内チラシ作成(2回)

○学術研修部会会議 4回開催

- 1) 平成23年5月26日(木) 19:00~20:30
 (60周年記念館10階 医学部・歯学部同窓会室)
- 2) 平成23年9月15日(木) 19:00~20:30
 (60周年記念館10階 医学部・歯学部同窓会室)
- 3) 平成23年11月10日(木) 19:00~20:30
 (60周年記念館10階 医学部・歯学部同窓会室)
- 4) 平成24年2月9日(木) 19:00~20:20
 (60周年記念館10階 医学部・歯学部同窓会室)
- 5) 平成24年5月10日(木) 開催予定

○歯学部同窓会HPへの学術研修分野等での協力。

全国歯科大学同窓・校友会学術担当者連絡会 (学術連絡会) 関連

- ・第27回学術連絡会準備会
 主管校 愛知学院大学歯学部同窓会
 開催日 平成23年4月3日(日)
 場 所 愛知学院大学歯学部楠本学舎
 本会からの出席者 梶村 幸市 先生
 (東京都:学術研修部員)
- ・第27回学術連絡会
 主管校 愛知学院大学歯学部同窓会
 開催日 平成23年8月20日(土)
 8月21日(日)
 場 所 名古屋ガーデン・パレス

本会からの出席者 南館 祐二 副部長

事務管理部

事務管理部長

星 加 修

- ・庶務部と協力の上, 事務伝達, 事務処理を行っ
 た。
- ・理事会メーリングリストを構築し, 理事・常任理
 事的意思疎通の円滑化を図った。
- ・本会の事務全般の記録, 会議の資料の作成, 保管
 を行い圭陵会会報への会務報告の掲載を行った。
- ・支部長会メーリングリストを作成し, 支部との連
 携, 情報交換の円滑化をはかった。

渉 外 部

渉外部長

田 中 英

- 平成23年
- 7月22日 12校会長懇話会(東京) 神垣出席
 - 7月23日 第58回全国歯科大学同窓・校友会懇話会
 (東京) 城, 田中, 神垣出席
 - 9月25日 12校会議ならびに日歯会長の時局講演会
 (東京) 城, 田中, 神垣, 安成出席
 - 10月1日 日大歯学部大塚総長・越川歯学部長就任
 祝賀会(東京) 城出席
 - 11月5日 第1回全国歯科大学同窓会・校友会日歯
 連盟参与会議(東京) 神垣出席
 - 11月20日 日大松戸歯学部40年を祝う会(東京) 田
 中出席
 - 11月26日 大阪歯科大学創立100周年記念式典(大
 阪) 城出席
 - 12月18日 12校会長会(東京) 城出席
- 平成24年
- 3月25日 12校会議ならびに日歯会長の時局講演会
 (東京) 城, 田中, 松村, 仙田, 安成出
 席

第28回全国歯科大学同窓・校友会学術担当者連絡会 報告

第28回全国歯科大学同窓・校友会学術担当者連絡会（学術連絡会）が鹿児島大学歯学部同窓会と長崎大学歯学部同窓会の主管で、平成24年5月26日（土）～27日（日）両日に渡り、ホテルパレスイン鹿児島にて開催し、参加校26校（欠席2校）、参加者は58名であった。

《第28回学術連絡会の主な内容》

報告事項

報告1：連絡網の確認、および、HP関連報告

報告2：第27回学術連絡会の会議および収支等の報告

議 題

議題1：学術連絡会の会計報告および監査報告とその承認について・・・承認

議題2：次々期主管校について

第30回主管校 東北大学歯学部同窓会・・・議決

（第29回主管校 朝日大学歯学部同窓会 平成25年8月24日（土）～25日（日））

討 論

・テーマ「同窓会学術として歯科口腔保健法の成立をどのように活かしていくか？」

・基調講演

【講演1】「思想としての8020～健康の絆としての歯科口腔保健法」

講師：大久保 満男先生（日本歯科医師会会長）

「要旨」

この度の「歯科口腔保健の推進に関する法律」いわゆる歯科口腔保健法の成立が歯科にどのような花を咲かせるのか。それが今大きく問われている。まず冒頭に強調しておきたいのは、この法律の理念が、歯と口の健康を守ることが全身の健康につながることを明確に法律に述べられたことにある。これは24年に及ぶ8020運動に関する調査・研究の成果であり、個人の80年の人生の目標でもある。と同時に本法律のもう一つの精神は、全てのあらゆる世代の国民、あらゆる状況の国民の健康を横に繋ぐ絆であると思う。自分の健康な人生が大事なら、同じように他者の健康も大切だという精神を、この法律に込めることこそ最も必要なことと考え、それについて講演された。

【講演2】「歯科口腔保健法と今後の課題」

講師：大久保 潔重先生（参議院議員）

【講演3】「歯科口腔保健の推進に関する法律について」

講師：小椋 正之先生（厚生労働省医政局 歯科口腔保健推進室室長）

・各地域での取り組みについて

【発表1】「歯科口腔保健法に基づく歯科健康診査として参考にできる事業紹介」

～吹田市の取り組みについて～

大阪大学 谷口 学先生

【発表2】「歯科保健条例制定に向けて」

～東京都日野市歯科医師会の取り組み～

東京医科歯科大学 斎藤 馨先生

【発表3】「長崎県における条例制定後の動向」

長崎大学 渋谷 昌史先生

協議題

・協議題1：FCIへの拠出金について 1万円の拠出金を議決

・協議題2：歯科外来診療環境体制加算の施設基準について

前回からの申し送り事項であったが、活動を終了することとした

・協議題3：学術連絡会としての意思決定におけるシステムづくりの検討について

全会一致、または多数決によって決める

・協議題4：準備会の名称について

「第29回連絡会第1回準備会」や「第29回連絡会第2回準備会」という呼び方とすることを決定した

・協議題5：若手会員へのアプローチについて

・協議題6：未納会員への対応

協議題5, 6は時間が足りず協議できなかったため、次回へ持ち越しとなった。

(学術研修部 2期 米内 正)

12校会議報告

日 時：平成23年9月25日

11：00～12：00

場 所：ホテルグランドパレス 3F「鶴の間」

参加者：城会長，田中副会長ほか12大学23名

次第

1. 開会

2. 報告

平成22年度会計報告（平成22年4月～平成23年3月）

現時点では、残額が998,314円あり、今年度も分担金なしで執行可能と思われるが、必要となった場合は各校に改めて分担金をお願いしたい（事務局）

3. 協議

（1）時局について

事務局である鶴見大学歯学部同窓会長の村田先生より12校会議が設立20周年を迎えるにあたり、その設立当初の目的と経緯について説明があった。その中で、日本歯科医師会への関わりが薄かった新設12校がその関わりを持つために勉強会の形で発足したのが始まりであった。全歯懇で当時の山崎日歯会長に代わって中原会長を推薦することが動議され、その中で12校会議が一定の役割を果たした。その結果、12校会議の現職会長の中から日歯代議員、日歯連盟役員に12校会議の代表として任命された。その後、伊堂会長が就任し、1期目までは同様の状況が続いたが、2期目からは12校会議からの推薦者ではなくなった。現在の久保会長になってからも、12校から人選されているものの12校会議、同窓会との関係は稀薄になっている。今後、どうするかを本日各同窓会長からご意見を伺いたいとの提案から各同窓会の意見を確認した。ただし、1時間という限られた会議の中で結論を出すのは困難であるため日を改めて十分時間を取って話し合うこととした。

（2）その他

特になし。

4. 閉会

5. 12校会議時局講演会

日 時：平成23年9月25日（日）

午後1時30分～

場 所：ホテルグランドパレス 3F 白樺の間

出席者：城会長，田中副会長，神垣理事，安成評議員ほか12校から62名

講 師：日本歯科医師会会長 大久保 満男 先生

演 題：東日本大震災の報告と保険医制度の改訂について

明海大学歯学部同窓会会長の司会進行のもと大久保会長の講演会が進められた。その中で、まず始めに東日本大震災での日本歯科医師会の活動報告がなされ、今回の震災に際しては歯科医師会会員、特に被災会員が自らを省みず、特に死体検案に献身的に活躍した旨が報告され、大規模災害に歯科医療の大切さが再確認されたとの報告があった。また、今後の支援として仮診療所の整備、歯科巡回診療車の確保のために予算を獲得したことが報告された。さらに、今後の支援として歯科診療所新設に於ける二重債務の問題などに対し、予算を獲得したいとの報告があった。

次に、保健医療制度、特に保険改訂に至る流れなどの説明があった。その中で、将来必要となるであろう分野、社会的要求が高まるであろう分野の取載を保険点数アップの影響がまだ小さい時期から上げていくのが得策であること、さらに歯科材料の高騰などの影響を避けるため新素材の保険取載などを検討する必要があるなどの提案があった。

文責：城 茂治



咬合崩壊を防ぐための補綴修復治療

—超高齢社会で求められるパラダイムシフト—

講師：柏田 聡明 先生

(東京都新宿区開業 東京医科歯科大学 歯学部臨床教授)

平成24年11月20日、岩手県歯科医師会館8020プラザにおいて学術講演会が開催されました。

講師には柏田聡明先生を御招きし「咬合崩壊を防ぐための補綴修復治療—超高齢社会で求められるパラダイムシフト—」というタイトルで講演を行っていただきました。

当日の講演内容を簡単ながら、以下にまとめさせていただきます。

卒業して40年、開業して30年がたち、自分と共に患者も歳を重ねていく。

人口ピラミッドは形が逆になってきて、高齢者が増えた。

1) 補綴修復歯を15年保証するまでの経緯とコンセプト

東北大学時代の患者さんの修復治療は適合にこだわっていたにもかかわらず、長期的にみると崩壊が激しく、逆に母親の行ったバンド冠は15年30年もつのが当たり前だった。

どうしてこのようなことが起きるのかという疑問から始まった。

最初の頃は5年保証だった。そのころから接着ということがいわれるようになり、だんだんと成績も良くなってきた。

10年ほど前に10年保証をはじめ、さらに材料も進化し、今では15年保証を行っている。

口頭だけではなく、文書化して保証したことは患者から安心と納得が得られることにつながった。

メンテナンスにきていただくことが条件になっているので、メンテナンスの定期的な受診率が向上した。

・患者さんが納得してくれる補綴修復治療とは

治療してから時間が経っても、治療したことも感じずよく食べられる、長持ちする、見栄えも良いこと。

・日常の臨床で6、7割が再治療である。

・インプラントが隆盛ではあるが、治療した歯が長期間もった時に患者さんはお任せしますと言ってくれる。

長持ちする補綴修復治療はどうしたらできるのかを「補綴修復イノベーション」(医歯薬出版)にまとめた。

2) 各ライフステージに求められる補綴修復の戦略的アプローチ

歯を守り、長持ちさせるために、治療は大型化しないで、シンプルにした方が良い。

(1) 日本の人口ピラミッドから、出生率の減少と超高齢社会の到来

(2) 後期高齢者において咬合崩壊がもたらすもの

3) 咬合崩壊の原因となる各歯のトラブル

(1) 補綴修復歯の長期的機能維持を妨げているトラブル

(2) これまでの補綴修復治療歯はなぜ長期的に機能できなかったのか

咬合力と細菌をキーワードに考えながら治療することが重要。

再治療の原因の多くには細菌が関与している。

そして、長期的に見ていくと歯の脱落の原因のトップはペリオではなく歯根破折という報告がある。

力について考えることが必要。メタルコアを入れている場合は特に歯根破折で歯を失うことが多い。

4) 二次う蝕の成因細菌の侵入をどのように防ぐか

従来の考え方はマージンのセメントの溶解により細菌が侵入していくというものであり、適合をよくすればいいといわれてきた。

ところが、セメントは溶解していないという報告もあり、実際古いクラウンを外してみるとセメントは残っているのにマージンより内側にう蝕が発生しているということがよくある。

それはなぜか？

咬合力でマージンが開閉し、細菌が侵入し、二次う蝕をつくる。

ポーセレンジャケット冠への連続衝撃試験でマージン部の接着が二次う蝕を防ぎ、そしてさらにポーセレンの破折を減少させることがわかった。

ADゲル法によって二次う蝕を、圧倒的に減少させることができた。

○ADゲル法（エッチング処理+10%NaClO処理）とは

削除後の象牙質表面にはスメア層があるが、エッチング処理を10～20秒間行うことでスメア層を除去し、ADゲル（10%NaClO）処理を1～3分間行うことで象牙細管の有機質を除去する。

ADゲル法により象牙質接着力が向上する。In vivoにおいても1.5倍の接着力が得られると報告された。

辺縁部への色素侵入試験でもADゲル法でパナビアを使うと色素侵入がないと報告された。

パナビア単独ではなく、ADゲル法を併用することによって、30kgで10000回の連続衝撃試験でも安定した結果が得られた。

咬合力による歪みをなくすために、歯質と近似した弾性率の修復材料や接着材を使い、接着で歯面を確実に封鎖して辺縁漏洩を防ぎ、耐産性層の形成によって歯質を強化し、脱灰を防ぐ。

歯質強化に関する実験で、ADゲル法でパナビアを使用するとフッ素の取り込みが大きく耐産性が上がるということがわかった。

In vivoでも同様の結果が得られた。

フッ素の取り込みにはカルシウムが必要である。

根充材にカルシウムの入っているアパタイトルートシーラーを使い、コアをADゲル法を用いてパナビアでセットするとフッ素の取り込みが大きくなる。

根面う蝕予防のために露出根面にADゲル法を用いてEDプライマーを塗布後にシーラント材のティースメイトを塗布する方法。

フッ素が取り込まれ耐産性層ができる。ただし、まだ十分ではないと感じており、もっとフッ素が取り込まれる方法を開発できればと考えている。

ユージノール系の仮封材やホルムアルデヒド、クレゾール等の根管治療薬は接着阻害を起こすが、ADゲル法を用いると影響が少なくなる。

パナビアF2.0で合着の際、前処理としてADゲル法を行うことによって、細菌の侵入を防ぎ、咬合力に対する耐久性が向上し、歯質を強化することが可能になった。

5) 歯根の保全をどのようにするか

(1) 補綴修復を成功させるための歯髄保存療法と歯内療法

コンポジットレジン充填で歯髄が死ぬのはなぜか、モノマーの刺激か辺縁の漏洩が原因といわれてきた。

来院した患者のなかから440症例に了解を得て、NaClO処理をしてコンポジットレジン修復を行った。

その結果、辺縁漏洩がない場合はほとんど歯髄刺激がないという確信を得た。モノマーは刺激にならないことがわかった。

病理標本でも歯髄の炎症は認められず、ならば直接覆髄も可能であると考えた。

親知らずによる直接覆髄64症例の実験では69%の成功確率だったが、当時のクリアフィルフォトボンドは接着力があまり強くなかったので、今はもっと成功率が高いはずである。

従来、自発痛、打診痛、温熱痛、冷水痛のいずれもが認められるような症例は抜髄が常識であったが、こうした重度の歯髄症状のある25症例に対して無菌化処置を行った。

すると20症例は臨床的に健康と思われる状態に回復した。

直接覆髄ができれば断髄にも応用が可能である。17年経過症例。

○レジンボンディング剤による歯髄覆罩を成功させるための要件

1) 歯髄、周辺歯質の無菌化

エッチング (10-30秒) 後ADゲル 2, 3分, 3 MIX等を用い無菌化

2) 露出歯髄面とその周辺窩壁での確実な封鎖

接着強さの大きい接着材を使用

3) 還元力の強いモノマーを有する接着材を使用

2液のプライマーを有する履層材を使用：ライナーボンドIIΣ

○直接覆髄・断髄を確実に成功させるには

接着力が強く、モノマー1液・無のボンドより、モノマー2液のボンドの方が、直接覆髄に適している。

充填であればメガボンド等でもいいが、直接覆髄に関しては今のところ、クリアフィルライナーボンドIIΣがベストである。

(2) 歯根破折を防ぐ支台築造

メタルコアと修復物は一体となって脱離している。そして破折は歯根で起こる。長期的にみていくと歯根破折で歯が喪失する。

○従来の補綴修復歯のトラブルの成因

1) メタルコア併用のメタルクラウンは"ツーピース継続歯"である

2) 咬合力は歯冠補綴物を介して歯質に伝達される

3) 歯質と補綴用材料との弾性率の違いから界面に応力が生まれる

ファイバーポストを用いた支台築造はなぜ歯根破折防止に有用なのか。

○ファイバーポストの特徴

1) 弾性率が歯質と近似している。

2) 曲げ強さが大きい

3) 接着強さが大きい

4) 審美性が高い

5) 再根管治療に有利

スノーポストは白いので再根治のときに透明なものより視認性が高い。

6) 上部構造をどのような視点で考えるべきか

○上部構造の具備すべき要件

- ・長期に歯冠補綴物の破折を起こさない
- ・歯冠補綴物の咬耗は天然歯に近いことが望ましい
- ・審美的に優れている
- ・金属アレルギー等を起こさない
- ・歯冠補綴物表面に歯垢や歯石が付着しづらい
- ・製作が容易である
- ・製作費が安価である
- ・安定して長期的な接着強さがある
- ・ロングスパンの使用が可能か

すべてを満たすものはないので状況に応じて選択する。

○ジルコニアを用いた修復物が長期間機能するための要件

- 1) 支台歯形成：機能咬頭のマージン部はラウンデットショルダーかヘビーシャンファーに形成する。
 - 2) 接着 ジルコニア被着面処理はアルミナサンドブラスト2気圧以内
 パナビアは不要だがセラミックプライマーを塗布
 3年半の間にジルコニアセラミッククラウンを1200本以上セットしているが、破折（チップ）した本数は8症例と少ない。
- e,max・ジルコニアの特徴
- ・ポーセレン・ジルコニアの3倍の曲げ強度がある
 - ・歯質に近似した咬耗をする
 - ・審美的に優れている
- 前歯部に関しては通常のジルコニアの方がいいが、臼歯部に関してはe,maxになっていくかもしれない。
- 7) 戦略的アプローチを具現化するための臨床的テクニックと材料
 - 8) 補綴修復を成功させるための歯周治療とメンテナンス
- 内科的歯周治療に用いている薬剤
 アジスロマイシン（ジスロマック）+口腔洗浄剤
- L.r.Prodentis（プロデンティス）と口腔衛生
 口腔内フローラを整える革新的で自然な手法
 口腔病原菌へ対する効果
 う蝕に関与する病原菌の減少
 プラークの減少
 歯肉炎による出血の減少
 歯肉炎の炎症緩和作用



（学術研修部 21期 古町 瑞郎）



ランチオンセミナー

開口障害に対する考え方と対処方法

講師：青村 知幸 先生

(岩手医大歯学部 口腔外科学講座 顎口腔外科学分野助教)

開口障害は食事の際に大きな物がうまく食べられない、歯科治療時に困難を伴うなど、日常生活においてさまざまな弊害を引き起こします。開口障害が生じる疾患は種々ありますが、日常の臨床において数多く経験するのは顎関節症によるものと考えられます。そこで、今回は顎関節症による開口障害を疑った患者さんへの対応について述べたいと思います。

まず初めに行うべきなのは、正しく診断することです。顎関節に症状を引き起こすものには、(表1)に示すように様々な疾患が挙げられます。開口障害が顎関節症によるものとして取り扱う際には、まず他疾患との鑑別診断をつけることが重要です。以下のような症状が認められる場合は要注意で、他疾患の可能性も検討すべきです。

- ・ 開口障害25mm未満
- ・ 2週間の一般的顎関節治療に反応しないか悪化する
- ・ 顎関節部や咀嚼筋部の腫脹を認める
- ・ 神経脱落症状を認める
- ・ 他関節に症状を伴う
- ・ 発熱を伴う
- ・ 安静時痛を伴う

次に大切なのは、開口障害を引き起こしているのが何であるかを正しく診断することです。日本顎関節学会では顎関節症を、(表2)のようにI型からV型に分類しています。そして、その分類はIV型、III型、I型、II型の順で除外診断がなされます。ここで注意すべき点は、咀嚼筋が原因で生じている開口障害でも、変形性関節症が認められる場合にはIV型に分類されてしまうということです。そして、咀嚼筋が原因で生じている開口障害に対して変形性関節症の治療をしても、当然のことながら効果は得られません。つまり顎関節症の症型分類は、治療法を選択する際に必ずしも有効ではない場合があるのです。以上のことを踏まえ、顎関節症による開口障害を治療する際には、個々の患者さんにおいて開口障害を引き起こしているのが、1から4のどの障害に当てはまるのかを検討すると良いと思います。

- 1 開口に伴うべき閉口筋の伸展が出来なくなった筋性の障害
- 2 自発的顎運動時の関節痛のために、下顎頭の滑走運動が障害された関節痛性の障害
- 3 下顎頭の前方に居座っている関節円板もしくは関節腔内の線維性癒着により下顎頭の滑走運動が障害された癒着・円板性の障害
- 4 下顎頭可動性の低下と筋性の障害が生じた複合性の障害

三つめは、治療の到達目標をどこに設定するかです。復位性関節円板転位が非復位性になったばかりの急性クローズドロックであれば、マニピュレーションによりロックを解除してやることで、即座に開口域をクローズドロック前の状態に戻すことが出来ます。しかしながら、クローズドロック期間が長期におよび解除が望めないような場合には、開口域の回復量は小さくなります。開口障害の原因が咀嚼筋の拘縮にあるような場合には、治療が長期間に及ぶことも覚悟しなければなりません。また、開口障害の新しい概念として近年話題となっている咀嚼筋腱・腱膜過形成症にも注意を要します。咀嚼筋腱・腱膜過形成症は、おもに咬筋、側頭筋、内側翼突筋などの腱・腱膜の過形成や構造変化、さらに筋の変性などにより咀嚼筋の伸展性が障害されることにより開口障害が生じるもので、症例によっては手術が必要となります。

診断および治療方針が決まってから治療に取りかかるわけですが、重要なことは保存的、可逆的な治療か

ら始めるということです。顎関節症は歯ぎしり、かみしめ、頬杖などの悪習癖が発症に関与している、一種の生活習慣病であるとの意見があります。また、顎関節症は自然治癒が期待できるself-limitingな疾患であることから、なるべく保存的、可逆的な治療法から開始することが推奨されるのです。つまり、物理医学療法（スプリント、マイオモニターなど）や行動医学療法（カウンセリング、リラクゼーションなど）のような可逆的で侵襲が少ない治療法から始め、それにより十分な効果が認められないときに、可逆的で比較的侵襲が少ない治療法である薬物療法、非開放性関節外科療法へと進みます。咬合治療や開放性関節外科手術のような非可逆的で侵襲が大きい治療はなるべく避けるように心がけるべきなのです。

米国口腔外科学会顎関節内障外科の効果判定基準では、治療の成功を「患者自身が治療に満足し、顎運動時に疼痛を認めないもの」としております。日常の臨床において、患者さんおよび先生方がより多くの満足感を得ることに、今回のお話しが少しでもお役に立てれば幸いです。

（青村知幸先生 自抄）

表1) 顎関節疾患の分類

- 1, 発育異常
 - 1) 関節突起欠損
 - 2) 関節突起形成不全
 - 3) 関節突起肥大
 - 4) 先天性二重下顎頭
- 2, 外傷
 - 1) 顎関節脱臼
 - 2) 骨折（関節突起, 下顎窩）
 - 3) 捻挫（顎関節部）
- 3, 炎症
 - 1) 化膿性関節炎
 - 2) 関節リウマチおよび関連疾患
 - 3) 外傷性顎関節炎
- 4, 退行性関節疾患あるいは変形性関節症
- 5, 腫瘍および腫瘍類似疾患
- 6, 全身性疾患に関連した顎関節異常
- 7, 顎関節強直症
- 8, 顎関節症



表2) 顎関節症の症型分類（日本顎関節学会2001年改訂）

- 1, 顎関節症Ⅰ型：咀嚼筋障害
咀嚼筋障害を主徴候としたもの
- 2, 顎関節症Ⅱ型：関節包、靭帯障害
円板後部組織・関節包・靭帯の慢性外傷性病変を主徴候としたもの
- 3, 顎関節症Ⅲ型：関節円板障害
関節円板の異常を主徴候としたもの
a；復位を伴うもの
b；復位を伴わないもの
- 4, 顎関節症Ⅳ型：変形性関節症
退行性病変を主徴候としたもの
- 5, 顎関節症Ⅴ型：ⅡⅤ型に該当しないもの



「再石灰化理論に基づく初期齲蝕治療のすすめ」

講師：飯島 洋一 先生

(長崎大学 大学院医歯薬学総合研究科 社会医療科学講座 口腔保健学 准教授)

表層下脱灰病変は齲窩がないため酸産生菌は病変内部に侵入しないが、酸がエナメル質の内部に浸透しミネラルを溶出した結果である。再石灰化処置によってpH条件の改善やミネラルの供給とフッ化物応用によって、脱灰せずに残った既存のミネラルを核に再石灰化現象が発現しやすい。再石灰化ミネラルは耐酸性能を有し歯質を保護する。フッ化物の有無は耐酸性の程度に影響を与える1)。耐酸性ミネラルの形成にはフッ化物イオンの存在は不可欠であるが、再石灰化反応それ自体はフッ化物がなくても発現する。フッ化物の存在下で再石灰化した初期エナメル質齲蝕は耐酸性となる。

専門的応用法であるフッ化物ゲルの予防効果 [D (M) FS] は28%であった。セルフケアとしてのフッ化物配合歯磨剤の効果は、同じ指標で24%であった。乳歯隣接面でのう蝕発病率 (dfs) については26%であった。この研究成果からフッ化物配合歯磨剤の上手な使い方が示唆された。齲蝕予防効果のある上手なフッ化物配合歯磨剤の使い方は、研究が行われた地域の名前をつけてイエテボリテクニック (図1) とも呼ばれている。その勘所は、

1. 湿らした歯ブラシに歯磨剤を1cm (約1g) つけ、
2. 歯磨剤を歯面全体に広げ、
3. 約2分間歯みがきをする。歯みがき中は必要以上に吐き出さないようにする。
4. 口腔内で歯磨剤は泡立つので、
5. 少しの水 (10ml) を口に含み、
6. 1分間は頬を一生懸命動かす、洗口液のように使う。
7. 吐き出した後は、追加のうがいをしないで、
8. 2時間は飲食を控える

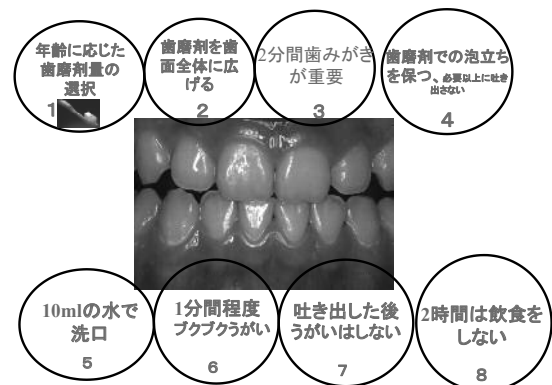


図1 上手なフッ化物配合歯磨剤の使い方
研究が行われた地域の名前をつけてイエテボリテクニックといわれる出展：Caries Res. 29;435-441,1995.

という方法である。最大のポイントは歯みがきをした後、少しの水で、いわゆる「ぶくぶくうがい」をすることにある。ここに紹介した方法は、研究対象者の年齢は4歳であることを考慮している。児童生徒から成人の場合は、歯ブラシに取りだす歯磨剤の量が少し多くなるだけで、同じように使用することで効果が期待できる。フッ化物配合歯磨剤の原則的な使用方法として推奨できる。さらに、フッ化物配合歯磨剤+いずれかの他の局所応用製剤との組み合わせはフッ化物配合歯磨剤の単独使用に比較して、10%の付加効果が認められた。

再石灰化には唾液本来の機能を模倣した重炭酸塩イオンによる緩衝能向上と必要とされる3つのミネラル成分 (Ca/P/F) を供給することが大切である2)。さらに、脱灰抑制、再石灰化促進、耐酸性向上のため、口腔環境には常に低濃度のフッ化物イオンを保つよう唾液機能の補完を行う必要がある。それにより、脱灰病変内の酸性状態は緩衝能を通じてpHは改善し、液体エナメルである唾液中のCa/Pが脱灰病変内部に浸透、ミネラルとして結晶化し再石灰化現象が発現する。その時、フッ化物の存在によって再石灰化したミネラルは明らかに耐酸性となり、再度の酸によっても脱灰をしない再石灰化ミネラルによって歯は保護されるようになる3)。臨床的に行う再石灰化処置の基本は、脱灰抑制-再石灰化促進の機能を有する唾液の長所を最

大限に活用し、欠点を補う点にある。最大の欠点は唾液中のフッ化物は再石灰化を促進するには、低すぎる濃度である。したがって上述したようにプロフェッショナルケアとセルフケアの組み合わせで臨床応用することである。今日では再石灰化機能を促進する食品が利用可能である。これら食品は歯質の保護機構である脱灰-再石灰化-耐酸性機能に注目したハイテク商品であり、初期う蝕病変の可逆性と進行停止をもたらす特定保健用食品である(表1)。セルフケア商品として患者さんに利用を推奨できる。さらに最近では、CPP-ACPはエナメル質の脱灰を抑制し、再石灰化を増強するという第一段階の機能に加えて、その再石灰化部位は耐酸性機能を有している4)。CPP-ACPを含有するMIペーストを用いて矯正歯科治療後のブラケット周囲に形成された白斑(Ws)の改善に関する大規模ランダム化比較対照試験に基づく臨床疫学データが報告された。ブラケット周囲に形成されたWsを齲窩にさせない具体的方法が例示された。本稿の内容を理解し、これらの方法を模倣することがWsを齲窩にさせない最短の近道である。すなわち、定期的なフッ化物利用+再石灰化促進効果のあるMIペーストの利用+特定保健用食品の利用によって再石灰化処置は完結する。

近年のMinimal Interventionの概念の発展は、齲蝕処置のコンセプトを大きく変えました。従来の「外科的」処置への反省の機運が高まるとともに、「内科的」アプローチへの転換の必要性が指摘されています。そのキーワードは再石灰化にあります。齲蝕は初期に再石灰化を意図して介入することができれば予防可能な疾患です。日々の臨床でこれらのことを実践されることを期待しております。

文献

1. Y. Iijima and O. Takagi: In situ acid resistance of in vivo formed white spot lesions. Caries Res. 34: 388-394, 1999.
2. Tanaka K, Iijima Y: Acid resistance of human enamel in vitro after bicarbonate application during remineralization. J Dent., 29 (6) :421-426. 2001.
3. 飯島洋一：フッ化物についてよく知ろう-う蝕予防の知識と実践，デンタルダイヤモンド社，東京，2010年4月出版。
4. Iijima Y, Cai F, Shen P, et al.: Acid resistance of enamel subsurface lesions remineralized by a sugar-free chewing gum containing casein phosphopeptide-amorphous calcium phosphate. Caries Res. 38 (6) : 551-556, 2004.

再石灰化・耐酸性関与成分	食品形態	メーカー	主な効果
CPP-ACP (乳タンパク分解物-非結晶性リン酸カルシウム)	ガム	クラフトフーズ	再石灰化・耐酸性
CaHPO ₄ -2H ₂ O (第二リン酸カルシウム) Funoran (フノリ抽出物)	ガム	ロッテ	再石灰化
PO ₄ -Ca (リン酸化オリゴ糖カルシウム)	ガム	グリコ	再石灰化・結晶性
お茶抽出物中のフッ化物 (緑茶フッ化物)	ガム	明治製菓	再石灰化・耐酸性

表1 特定保健用食品の再石灰化あるいは耐酸性に関与する成分を含有する商品とメーカー

「顕微鏡下での歯内療法」



講師：野田 守 先生

(岩手医科大学歯学部 口腔医学講座 歯科医学教育学分野 教授)

過日は、歯学部同窓会主催の講演会に多数ご出席いただきありがとうございました。

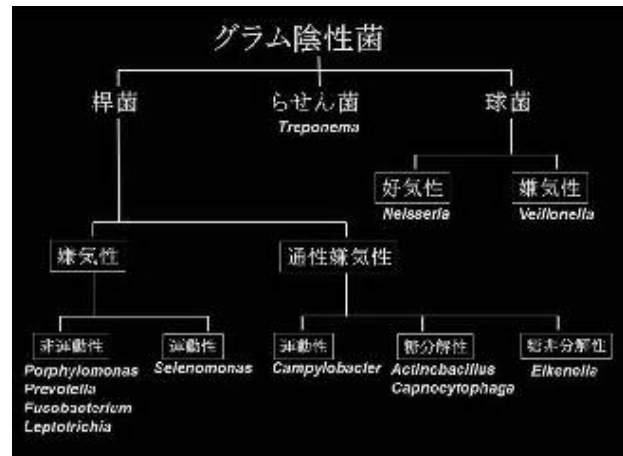
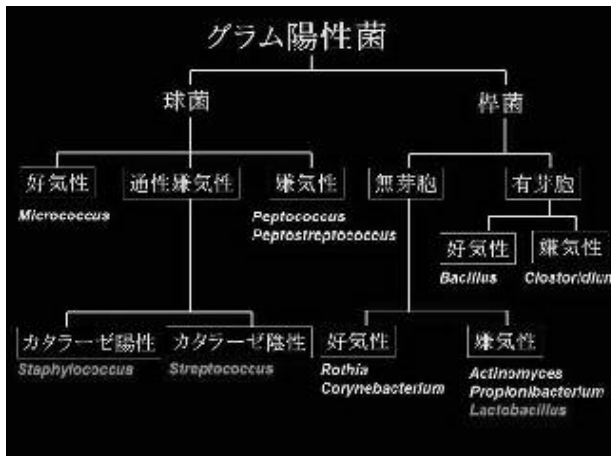
当日は同窓の諸先生方から熱心な質問も頂戴し、非常に楽しく盛り上げて頂き、このような機会を得ることできたことをとても幸せに思っています。中野先生をはじめ関係の先生方にこの場を借りて重ねてお礼申し上げます。当日の全てとはいかないまでも、極力簡潔かつわかりやすく講演内容について事後報告をさせていただきます。

また、報告が遅れましたことをお詫び申し上げます。今後とも何卒よろしくお願いいたします。

1. 細菌学、口腔内の細菌の分類と検出法

既にご承知のことと思われませんが、口腔内に見られる疾患の多くは感染症です。従って、どのような細菌が常在しているかを今一度簡単に振り返って見ました。

細菌の分類の一つとしてグラム分類が一般的です。これは単にクリスタルバイオレットによる細菌細胞壁の染色性による違いであり、病原性とは全く関係はありませんが簡便明瞭で古くから用いられています。口腔内には様々な細菌が常在していますが、齶蝕や歯髄炎と関連する細菌としてはStreptococcusをはじめとするグラム陽性の通性嫌気性菌が関与することが多く、慢性歯周炎、いわゆる歯周病にはPorphyromonasを始めとするグラム陰性の偏性嫌気性菌が深く関与することが知られています。



2. 難治性感染根管とその原因菌

感染根管の中でも、特に症状の改善が見られず治療に苦慮するケースいわゆる難治性感染根管と呼ばれる症例があります。1990年代の後半から多く取り上げられるようになりました。私が以前所属しておりました北海道大学でも、医科歯科大学や九州大学と共同で原因究明や治療法について研究を進めてまいりました。

根管内から得られる微量な浸出液からの細菌検出について分担研究を行いました。その結果、長期化した症例ではグラム陽性の通性嫌気性球菌が多く検出されますが、Enterococcusが比較的多く検出される傾向にあり、抗生物質耐性傾向が強いことが示されました。

グラム分類と球菌・桿菌で整理してみますと。

Table 1. Classification of detected bacteria with the pressure method

Group	Genus	No. of Cases	Species	No. of Cases
Gram-positive	Streptococcus	9	Streptococcus spp.	2
	Enterococcus	6	Lactobacillus	2
	Streptococcus mitis	2	Corynebacterium	1
	Streptococcus salivarius	1	Streptococcus	1
	Streptococcus pyogenes	1		
	Streptococcus	1		
Gram-negative	Enterobacteriaceae	1	Enterobacteriaceae	1
	Enterococcus	1	Enterobacteriaceae	1

口腔内なので、グラム陽性球菌は
やはり多いですが・・・
Enterococcusは気になる存在です。

Table 2. Antibiotic susceptibility of the bacteria isolated

Species	Antibiotic													
	AMP	AMP	AMP	AMP	AMP	AMP	AMP	AMP	AMP	AMP	AMP	AMP	AMP	AMP
Streptococcus	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
Enterococcus	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
Streptococcus mitis	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
Streptococcus salivarius	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
Streptococcus pyogenes	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
Streptococcus	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
Enterobacteriaceae	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
Enterococcus	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

長引いた症例では、Enterococcusが多く検出される。
そして、薬剤耐性傾向が強い場合が多い。

3. 感染根管の考え方

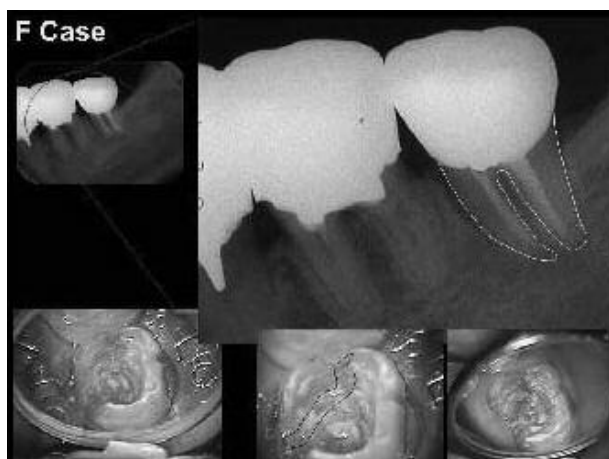
当時は、感染根管の原因菌を同定し、薬剤耐性傾向を調べて適切な抗生物質を使用することで治療法に近づけようとするのが考え方の主流でした。しかし、その後の多くの研究で、齶蝕、根尖性歯周炎や慢性歯周炎に関与する細菌がバイオフィームという複雑な細菌構成をしていることが明らかとなり、単独の抗生物質でこれらの疾患に対処することが困難であることが徐々に明らかになりました。

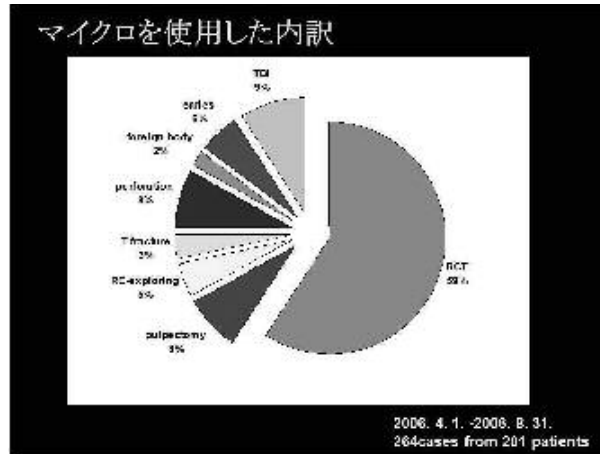
薬剤を用いての原因療法として求められるのはこれらのバイオフィームを除去するかバイオフィームを構成する細菌叢を変えることが必要となります。現時点でこれを満足する薬剤はないと思われます。

4. 顕微鏡下での根管治療

今日では歯科領域でも当たり前のように用いられている顕微鏡や拡大鏡ですが、当初は口腔外科の手術で使用される事が多かったようですが、歯周療法や歯内療法分野でも利用されるようになって行きました。

極めて当たり前のことですが、顕微鏡を使うことで暗い術野を明示して処置できるだけでなく、カメラやビデオを併用することで記録を取ることが可能になります。それらの記録により症状の経時的変化を客観的に知ることが出来ます。さらに、患者さんへの説明に際してもとても効果があります。





5. 臨床実習と臨床研修

今回の講演内容とは直接の関係はありませんが、現在、歯学部は国家試験合格率が低迷し、入学志望者も減少して非常に苦しい状況を迎えております。この状況を打破すべく、昨年度より臨床実習のカリキュラムを大幅に改革しました。見学中心の実習から、以前行われていた実践型の臨床実習に切り替えました。

臨床研修の方もひと足早く内容を充実させるように努力してまいりました。

私の赴任いたしました総合歯科は、赴任当時の月別患者数が900名程でしたが、現在では1800名程に増加しています。それだけ、研修医が充実して研修を行えることを目指してスタッフ一同努力しています。

教育に関する努力が実を結ぶには時間が掛かります。H23年度では国家試験はある程度改善し、全国平均に近いレベルに達することができました。この結果をさらに伸ばして行くには、同窓の先生方のご協力無しには実現することはできないと痛感しています。

どうかこれからも岩手医科大学・歯学部と同窓の先生方のご助力を賜ることができるように、私たちも努力していく所存ですので、何卒、ご協力をいただきたいと思います。

本日は長時間にわたり、ありがとうございました。



ランチオンセミナー

「障がい者歯科の現状と歯科治療」

講師：久慈 昭慶 先生

(岩手医科大学歯学部 口腔保健育成学講座 障害者歯科学分野 准教授)

近年、当科では内部障害の患者は減少し、精神遅滞や自閉症、脳性麻痺などの患者の割合が高くなってきている。

精神遅滞は知能が低いため周囲の環境に対応する能力が低いが、行動調節に比較的反応する。自閉症は認知の障害であって感覚にも障害があり、行動調節の効果は出にくい。脳性麻痺は脳に原因をもつ先天的運動障害であるが、不随意運動や原始反射など、患者本人も制御不能でつらい症状は歯科治療にも不都合である。

当科では上記患者の歯科治療を正確かつ円滑に行うため、あらゆる行動調節を使用している。まず心理的方法は、患者の気持ちを歯科治療を受ける方向に導く方法である。具体的には、オペラント条件付けや系統的脱感作法、モデリング法、カウント法などである。あと、自閉症の患者には、TEACCH programの応用、脳性まひの患者には生理学的方法が薦められる。

当科では上記の行動調節法で効果が見込めない場合、薬理学的方法の中の日帰り全身麻酔を多用している。この方法は入院を必要としないため、患者や付添い人にも好評である。

患者に、どの行動調節がふさわしいのかは、障害の種類や重症度の他に、患者個人の性格、当日の歯科処置の種類、体調などが影響しているようである。したがって術直前に最終判断を下すこともある。取り外しの義歯などの適応なども意外と患者個人の性格が大きく関与しているようである。



平成23年度岩手医科大学歯学部同窓会評議員会報告

平成24年5月19日、午後4時10分より60周年記念館9階講義室において標記会議が開催された。

(司会進行：副会長・佐藤 忠朋)

1. 開会の辞

副会長・星加 修一

2. 氏名点呼

事務長・高橋 秀明

評議員定数61名（過半数31名）に対し、出席者57名（うち委任状18名）であり、歯学部同窓会会則第19条の条件を満たし、本評議員会は成立することを報告。

3. 挨拶

会長・城 茂治

昨年3月11日に東日本大震災が勃発し、会員の先生方にも大変甚大な被害があった。

それに伴い、各支部の先生方に義援金をお願いしたところ多額の支援いただき、歯学部同窓会として、被災された先生方に分配させていただいた。また、積立金も取り崩し、第二次の支援として実施した。

4. 報告

本学歯学部病理学講座・武田 泰典教授（6期卒）

平成24年度は57名の募集に対し35名の入学で定員割れとなった。歯科医師過剰と言われているが望まれる歯科医師は不足している、と伝えながら教育している。

岩手医大は、学生1人当たりに対する教員数は、私立歯大歯学部の中でトップで手厚く教育しているが、学生一人当たり六年間で2,700～2,900万円の授業料が必要である。大学として医療系三学部が連携した全人的教育を目標としており、教育の質は落とせない。現在歯学部は、小川理事長兼学長のリードのもと参加型実習を主軸とした歯学部改革に大学挙げて取り組んでいる。来年度からはセンター試験への参加も可能になったので選択肢の一つに岩手医大を考えていただきたい。各支部においても会員に直接お話しできる機会を与えていただき、大学の現状説明と入学生確保のためのお願いをさせていただきたい。今後とも母校発展のために協力をお願いしたい。

5. 報告

日本歯科医師会・佐藤 保常務理事（地域保健担当）（10期卒）

平成23年度は歯科関係に大きな変化があった年で、担当している部署では、厚生労働省だけで部会、審議会含めて約10の部外審議会に出ている。

その中でまず、診療報酬、介護報酬同時改定について、特に社保担当の堀常務理事と連携した。この同時改定という部分については、3年前の反省をもって今年度は3月までに新介護報酬の改定のポイントを幾つかお知らせした。

また、5年に1度の「医療計画の改定」と「健康日本21の見直し」があった。「医療計画の改定」では特に災害医療もこの計画に含まれている。そして、平成25年度から都道府県で実施されるのは、精神疾患が入り5疾病5事業となった。同計画においては、すべての骨組みの部分で歯科保健医療福祉は大事であるということが書き出されており、5年間都道府県における計画にぜひこのひな形を活用していただきたい。

「健康日本21の見直し」では、新たな計画の骨子ができ、もうすぐ大臣告示に至る。

10年ぶりの改定となった母子健康手帳には、歯科の部分の重要性がほぼ要望したとおりの内容が記載されたので、保健所、保健センター等での集団検診とともに歯科診療所で検診が行われるなかで、ぜひご活用いただきたい。

平成23年8月10日に公布施行された歯科関連単独の「歯科口腔保健法」の進捗状況は、基本的記載事項の検討が行われ、今パブコメが行われている。この法律をもとにどういう計画を立てて、どういう調査をするかというのが平成25年度の予算になってくる。いろいろな意見を盛り込むことができたと思っているが、要は絵にかいた餅にならないためにはどういう計画を立て、どのような予算をどうつけるか検討している。

6. 議長選出

議長：田熊 和夫先生（宮城県）

副議長：木村 英敏先生（青森県）

7. 黙 祷

平成23年度ご逝去された会員

水口 博先生（3期，平成23年9月8日ご逝去）

大島 敏明先生（8期，平成23年11月8日ご逝去）

田畑 堅司先生（9期，平成23年4月19日ご逝去）

塩路 浩也先生（24期，平成23年7月8日ご逝去）

後藤 綾子先生（30期，平成22年11月30日ご逝去）

8. 議事録署名人選出

小田島正博先生（宮城県）

和田 武彦先生（岩手県）

9. 報 告

平成23年度会務報告（詳細はP17に記載）

（意見）学生の意識向上のために、学術研修会への参加をもっと呼びかけてはどうか。

（群馬県・石北裕評議員）

10. 監査報告

長門 孝次監事

平成23年度圭陵会岩手医科大学歯学部同窓会の事業全般に関する監査報告

11. 議 事

1) 第1号議案：平成23年度会計収入支出決算の承認を求むる件

2) 第2号議案：平成24年度事業計画（案）の承認を求むる件

四本の大きな柱をもって事業を進めたい。

①岩手医大の歯学部の充実発展のために協力をする。

②大学、同窓会本部、各支部との連携強化を推進する。

③岩手医科大学総合移転整備計画の推進に協力をする。

④東日本大震災における被災会員への継続的支援を行う。

⑤各部の主たる事業目標（詳細は割愛）

3) 第3号議案：平成24年度会計収入支出予算（案）の承認を求むる件

※すべての議案を可決承認

質疑のなかで、「子弟を紹介してほしいということならしっかり窓口を設置すべき」（岩手県・岩渕安信評議員）「授業料を大幅に下げて、精選された学生を集め、国家試験の合格率を上げるべき」「圭陵会と同窓会の形態をある程度変えていくことを考えていくべき」（以上、宮城県・羽田野明評議員）等の意見が出された。

12. 協 議

1) 東日本大震災における被災会員への対応について（城会長）

昨年の評議員会です承された、10,000,000円特別会計のほうからの取り崩しとこれに加え前回支援した義援金の余りを、診療所をなくした先生と今避難されている先生に配布させていただいたことを報告。それに対する質問等はなし。

2) 会費の免除について（佐藤副会長）

歯学部同窓会会則の細則に会費免除という項目をつくるべきか、また年齢をどう設定すべきか、という提案に対し、「会費納入は会員の義務であり、会費を払うぐらいの仕事はしているので会費は払い続ける、そういう自負は持っている（東京都・小室昭夫評議員）」「年齢だけで区切るのではなく、廃業し

た会員、やむなく病気とか働けなくなった会員の免除を含め、執行部でもう少し詰めたほうがいいのではないか（岩手県・中屋敷修評議員）等の意見が出された。今後さらに検討することとした。

3) その他（佐藤副会長）

岩手医科大学の歯学部入学者、受験者の減少について、

①歯学部には教授が不在の講座があるということだが、現状を教えて欲しい（栃木県・生井俊一評議員）

（回答） 城会長

米満教授が退職された後が決まってない。歯科保存学講座の歯周療法学分野には八重柏教授（15期）、補綴インプラント学講座（従来の一補綴、二補綴、インプラントの3つが統合）には近藤教授（東京医歯大卒）、また解剖学講座の機能形態学分野（解剖学講座は医学部と一緒に講座統合）には藤村教授（9期）が就任した。

②ハーバード大学との提携というのは本当に学生にとって大丈夫なのか（栃木県・生井評議員）

（回答） 城会長

改革のプロジェクトの目的は「国家試験の合格率向上」「入学志願者の増加」「学生の満足度を上げる」「教員の満足度を上げる」「卒業生の満足度を上げる」の5つで、そのために、「歯学教育部門立ち上げ」「講座の再編」「新しいカリキュラムの編成」「トータルケア外来（CCC）の立ち上げ」「歯科医療センターの再編」「最新歯科医療の導入」などが進められている。結果が現れるのは、未だ先のことであるが、今年の実験合格率は、77%とまずまずであった。改革プロジェクトの一環として基礎講座が移転した後の歯学部5階を改装してソサイエティを設け、勉強する環境が整ったことが大きい。学生たちは夜遅くまでそこで勉強しているので、ぜひ行って激励してもらいたい。

③学生の素質もさることながら、指導する先生の教育者としての能力はどうなのか。（長門監事）

（回答） 城会長

数年来それが随分問題になり、教員の教育（ファカルティ・ディベロップメント）の必要性が叫ばれ、様々な機会を利用して教育方法を学んできた経緯がある。大学全体としての教育に関しては、試行錯誤しながら今日に至ったが、これまでやってきたことが余り実を結ばなかったため、ハーバードの教育システムを取り入れて新しい岩手医科大学歯学部方式の教育システムを構築すべく取り組んでいる。うまくいけば非常にいい学生が育つだろうと思っている。教員評価もここ数年実施され、学生による評価もなされており、教える側にもまだまだ改善の余地がある。

13. 閉会の辞

副会長・村上 正博

（文責：広報部長 三善 潤）

歯学部組織構成員名簿

(平成24年7月20日現在)

解剖学講座

機能形態学分野

教授 藤村 朗
 助教 安藤 慎紀
 助教 鍵谷 忠慶
 研究員 濤岡 暁子
 研究員 松本 陽子
 研究員 中山 貴博

発生物・再生医学分野

教授 原田 英光
 講師 藤原 尚樹
 助教 大津 圭史
 大学院3年 坂野 深香

生理学講座

病態生理学分野

教授 佐原 資謹
 講師 成田 欣弥
 助教 深見 秀之
 ポストドクター 堀江 沙和

生化学講座

細胞情報科学分野

教授 石崎 明
 准教授 加茂 政晴
 講師 客本 斉子
 助教 帖佐 直幸
 ポストドクター 衣斐 美歩
 ポストドクター 大久保 直登
 大学院4年 吉田 茉莉子

微生物学講座

分子微生物学分野

教授 木村 重信
 准教授 佐々木 実
 助教 下山 佑

研究員 石河 太知

薬理学講座

病態制御学分野

教授 加藤 裕久
 講師 田村 晴希
 助教 山田 ありさ
 研究員 矢野 明
 研究員 今村 隆子

病理学講座

病態解析学分野

教授 武田 泰典
 講師 佐藤 泰生
 特任講師 三上 俊成

医療工学講座

准教授 平 雅之
 講師 根津 尚史
 特任講師 齋藤 設雄
 助教 佐々木 かおり

歯科保存学講座

う蝕治療学分野

教授 野田 守
 准教授 工藤 義之
 准教授 成石 浩司
 助教 熊谷 啓二
 助教 千田 弥栄子
 助教 浅野 明子
 助教 岡田 伸男
 助教 志賀 華絵
 助教(任期付) 千葉 史子
 研究員 山本 楨子
 研究員 中村 芳章
 研究員 青島 久

歯周療法学分野

教授 八重柏 隆
 助教 金澤 智美
 助教 村井 治
 助教 藤原 英明
 助教 佐々木 大輔
 助教 大川 義人
 助教(任期付) 伊東 俊太郎
 研究員 櫻井 悠介
 研究員 山形 暢
 研究員 諏訪 渚
 研究員 須和部 京介
 研究員 阿部 公人
 研究員 笹内 貴史
 研究員 井關 陽介
 研究員 河合 崇普
 研究員 小野 隆
 研究員 吉野 美香
 研究員 神林 友紀
 研究員 相羽 健太郎
 大学院3年 澤田 俊輔
 大学院2年 滝沢 尚希

補綴・インプラント学講座

教授 近藤 尚知
 准教授 武部 純
 准教授 古屋 純一
 講師 古川 良俊
 講師 鬼原 英道
 講師 織田 展輔
 特任講師 金村 清孝
 特任講師 小林 琢也
 助教 大久保 卓也
 助教 大平 千之
 助教 田邊 憲昌
 助教 横瀬 隆夫
 助教 伊藤 茂樹

助 教 近 藤 貴 之
助 教 野 村 太 郎
助 教 丸 尾 勝 一 郎
助教(任期付) 齊 藤 裕 美 子
助教(任期付) 遠 藤 寛
助教(任期付) 澤 田 愛
助教(任期付) 玉 田 泰 嗣
助教(任期付) 中 村 俊 介
助教(任期付) 原 総 一 朗
助教(任期付) 高 藤 恭 子
研 究 員 山 森 伸 子
研 究 員 石 岡 真 理 絵
研 究 員 小 見 憲 夫
研 究 員 鳥 谷 悠
研 究 員 菅 野 寿 美 江
研 究 員 千 田 豪 也
研 究 員 道 又 俊
研 究 員 山 田 優 貴
研 究 員 吉 田 大 徹
研 究 員 伊 藤 文 子
研 究 員 三 浦 真 悟
研 究 員 佐々木 健
研 究 員 安 藝 紗 織
研 究 員 米 澤 悠
研 究 員 松 木 康 一
研 究 員 石 塚 華 奈
大学院 4 年 宮 田 京 平
大学院 3 年 畠 山 航
大学院 3 年 櫻 庭 浩 之
大学院 3 年 佐 藤 友 秀
大学院 3 年 原 淳 徳
大学院 3 年 山 本 尚 徳
大学院 3 年 横 田 潤
大学院 2 年 折 祖 研 太
大学院 2 年 松 本 知 生
大学院 2 年 味 岡 均
大学院 2 年 久 保 田 将 史
大学院 1 年 五 十 嵐 靖 之

口腔顎顔面再建学講座

口腔外科学分野

教 授 水 城 春 美
教 授 杉 山 芳 樹
准 教 授 星 秀 樹
助 教 青 村 知 幸
助 教 八 木 正 篤
助 教 熊 谷 章 子
助 教 飯 島 伸 子
助 教 松 本 直 子
助 教 野 宮 孝 之
助 教 古 城 慎 太 郎
助 教 松 尾 伸 一
助 教 阿 部 亮 輔
助 教 川 村 貴 史
助教(任期付) 松 本 誠
助教(任期付) 山 谷 元 氣
助教(任期付) 大 橋 祐 生
研 究 員 岩 淵 阜
研 究 員 柴 崎 信
研 究 員 阿 部 美 智 夫
研 究 員 古 枝 和 也
研 究 員 橋 本 圭
研 究 員 中 谷 寛 之
研 究 員 林 友 翔
研 究 員 古 屋 出
研 究 員 加 藤 秀 昭
研 究 員 高 橋 美 香 子
研 究 員 澤 田 剛 光
研 究 員 角 田 耕 一
研 究 員 千 葉 卓
研 究 員 羽 田 朋 弘
研 究 員 原 康 文
研 究 員 田 口 圭 介
研 究 員 中 田 絵 美
研 究 員 西 平 宗 功
研 究 員 南 舘 英 明
研 究 員 宮 形 養
研 究 員 川 村 友 里 子
研 究 員 小 野 寺 慧

研 究 員 近 藤 正 人
研 究 員 中 里 紘
研 究 員 油 井 諒 子
研 究 員 角 田 直 子
研 究 員 熱 海 達 朗
研 究 員 中 畑 健 太 郎
研 究 員 前 原 恵 理
研 究 員 三 田 綾 子
大学院 4 年 齋 藤 大 嗣
大学院 2 年 岩 崎 賢 介
大学院 2 年 増 田 智 幸
大学院 1 年 樋 野 雅 文
大学院 1 年 小 松 祐 子

歯科麻酔学分野

教 授 城 茂 治
准 教 授 佐 藤 雅 仁
講 師 佐 藤 健 一
特 任 講 師 四 戸 豊
助 教 坂 本 望
助 教 遠 藤 千 恵
常 任 研 究 員 鍋 島 謙 一
常 任 研 究 員 石 塚 淳 実
常 任 研 究 員 山 田 大 爾
常 任 研 究 員 大 橋 綾 子
常 任 研 究 員 鎌 田 俊 仁
常 任 研 究 員 三 浦 仁

歯科放射線学分野

教 授 小 豆 嶋 正 典
講 師 東 海 林 理
講 師 泉 澤 充
助 教 佐 藤 仁
助 教 星 野 正 行
助 教 高 橋 徳 明
研 究 員 鈴 木 美 智 恵
大学院 4 年 齋 藤 圭 輔

口腔保健育成学講座

歯科矯正学分野

教授 三浦廣行
 准教授 八木實
 准教授 清野幸男
 講師 金野吉晃
 特任講師 佐藤和朗
 助教 鈴木寿代
 助教 飯塚康之
 助教 水川卓磨
 助教 若林香枝
 助教(任期付) 山田裕之
 常任研究員 三條晃
 常任研究員 遠藤陽子
 常任研究員 南順子
 常任研究員 菊池宗法
 常任研究員 富岡宗弘
 常任研究員 三浦佐知
 常任研究員 桑島幸紀
 常任研究員 西田夏奈子
 常任研究員 遠藤泰佑
 研究員 福田大介
 研究員 榊田佳子
 研究員 増山美樹子
 研究員 山田紗和子
 研究員 小橋龍太郎
 大学院3年 古川真司
 大学院3年 青松恵美子
 大学院3年 木村仁迪
 大学院1年 島山慧

小児歯科学分野

教授 田中光郎
 講師 齋藤亮
 助教 両川明子
 助教 及川利佳子
 助教 高橋雅
 研究員 丸山裕代
 大学院3年 奥野瑛
 大学院3年 木村美澄

障害者歯科学分野

准教授 久慈昭慶
 助教 菊池和子
 助教 熊谷美保
 常任研究員 小板橋航
 常任研究員 中野明子
 大学院1年 森霞

口腔医学講座

関連医学分野

教授 中居賢司

予防歯科学分野

准教授 稲葉大輔
 特任准教授 岸光男
 特任講師 阿部晶子
 助教 南健太郎
 助教 相澤文恵
 助教 杉浦剛
 大学院3年 松井美樹

歯科外科学

講師(兼務) 西塚哲

平成23年度学位授与者一覧

『課程博士（歯学）』…下記14名

学位授与月日…平成24年3月2日

学位記授与式…平成24年3月13日

①授与番号： 甲第272号 ^{やま} ^だ ^{だい} ^じ 山田大爾（歯科麻酔学）
 学位論文題目： ブタ舌動脈血管平滑筋における各種血管拡張物質による一酸化窒素の変化
 【主査 城教授 副査 佐原教授，加藤教授】

学位授与月日…平成24年3月9日

学位記授与式…平成24年3月9日

②授与番号： 甲第273号 ^{たか} ^{はし} ^み ^か ^こ 高橋美香子（顎口腔外科学）
 学位論文題目： Fibroblast growth factor-1-induced ERK1/2 signaling reciprocally regulates proliferation and smooth muscle cell differentiation of ligament-derived endothelial progenitor cell-like cells
 （酸性線維芽細胞増殖因子誘導性のERK1/2シグナルは靭帯由来血管内皮前駆細胞様細胞の増殖と平滑筋細胞分化を相反的に制御している）
 【主査 杉山教授 副査 石崎教授，八重柏准教授】

③授与番号： 甲第274号 ^{しめ} ^の ^{たつ} ^や 示野達也（冠橋義歯補綴学）
 学位論文題目： CAD/CAMによるオールセラミッククラウンの近遠心幅径の設定に関する検討
 【主査 野田教授 副査 武部准教授，根津講師】

④授与番号： 甲第275号 ^み ^{うら} ^{しん} ^こ 三浦真悟（冠橋義歯補綴学）
 学位論文題目： Biological behavior of fibroblast-like cells cultured on anodized-hydrothermally treated titanium with a nanotopographic surface structure
 （ナノ構造を有する陽極酸化・水熱処理チタン表面上における線維芽細胞の挙動に関する検討）
 【主査 石崎教授 副査 武部准教授，近藤准教授】

⑤授与番号： 甲第276号 ^{まし} ^{がみ} ^{りょう} ^た 岸上良太（顎口腔外科学）
 学位論文題目： Histological Analysis of Epithelial Stem Cells during Induced Pluripotent Stem Cell-derived Teratoma Development
 — iPS細胞由来奇形腫形成過程における上皮幹細胞の組織学的解析 —
 【主査 水城教授 副査 原田教授，武田教授】

⑥授与番号： 甲第277号 ^{なか} ^{むら} ^{しゅん} ^{すけ} 中村俊介（有床義歯補綴学）
 学位論文題目： 実験的な固有口腔の拡大に対する口蓋床の装着が嚥下時舌口蓋接触に及ぼす影響
 【主査 杉山教授 副査 古屋准教授，武部准教授】

⑦授与番号：	甲第278号 櫻庭春菜 (歯科矯正学)
学位論文題目：	Hepatocyte growth factor stimulates root growth during the development of mouse molar teeth (肝細胞増殖因子はマウス臼歯の発生において歯根の成長を促進する) 【主査 石崎教授 副査 原田教授, 武田教授】
⑧授与番号：	甲第279号 桑島幸紀 (歯科矯正学)
学位論文題目：	赤色蛍光強発現遺伝子導入マウスにおける蛍光発現部位の形態学的検討 【主査 三浦教授 副査 藤村教授, 石崎教授】
⑨授与番号：	甲第280号 玉田泰嗣 (有床義歯補綴学)
学位論文題目：	全部床義歯装着が舌骨の位置と咽頭の幅径に与える影響 【主査 小豆嶋教授 副査 古屋准教授, 藤村教授】
⑩授与番号：	甲第281号 佐々木 健 (有床義歯補綴学)
学位論文題目：	ACP分類と無歯顎者のオトガイ孔開口位置, 開口方向およびアンテリアループとの関係 【主査 小豆嶋教授 副査 古屋准教授, 近藤准教授】
⑪授与番号：	甲第282号 須和部 京介 (歯周・歯内治療学)
学位論文題目：	Identification of an L-methionine γ -lyase involved in the production of hydrogen sulfide from L-cysteine in <i>Fusobacterium nucleatum</i> subsp. <i>nucleatum</i> ATCC 25586. — <i>Fusobacterium nucleatum</i> subsp. <i>nucleatum</i> ATCC 25586におけるL-cysteineから硫化水素産生に関与するL-methionine γ -lyaseの同定— 【主査 八重柏准教授 副査 加藤教授, 木村教授】
⑫授与番号：	甲第283号 及川 愛 (口腔組織学)
学位論文題目：	エナメル質の横紋形成メカニズムの解明 【主査 佐原教授 副査 原田教授, 藤村教授】
⑬授与番号：	甲第284号 三浦 仁 (歯科麻酔学)
学位論文題目：	The role of protease activated receptors in intracellular calcium dynamics of neurons and satellite cells in rat superior cervical ganglia —ラット上頸神経節中の神経細胞および衛星細胞の細胞内カルシウムイオン濃度変動に及ぼすPARsの役割— 【主査 城教授 副査 藤村教授, 佐原教授】
⑭授与番号：	甲第285号 鎌田 俊 (歯科麻酔学)
学位論文題目：	塩酸メピバカインの血管平滑筋に対する作用および作用機序の検討 【主査 城教授 副査 佐原教授, 加藤教授】

『論文博士（歯学）』…下記1名

学位授与月日…平成24年3月2日

学位記授与式…平成24年3月13日

①授与番号： 乙第115号 佐藤一裕（口腔保健育成学講座 口腔保健学分野 研究生）
学位論文題目： 岩手県における口腔インプラント治療の受療要因に関する決定木分析
【主査 米満教授 副査 三浦教授, 近藤准教授】
平成24年3月9日

第105回歯科医師国家試験 大学別合格者状況

平成24年3月19日発表

国立			全国順位	大学名	総数			新卒			既卒			104回合格率(総数)	前回との比較	国試浪人	
新卒順位	既卒順位	国立総数順位			受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率				
2	2	1	2	大阪大学歯学部	65	59	90.8%	56	53	94.6%	9	6	66.7%	86.4%	4.4%	6	
3	7	2	3	東北大学歯学部	61	55	90.2%	55	52	94.5%	6	3	50.0%	86.2%	4.0%	6	
7	1	3	4	東京医科歯科大学歯学部	69	62	89.9%	63	57	90.5%	6	5	83.3%	91.5%	-1.7%	7	
1	11	4	5	広島大学歯学部	65	56	86.2%	57	54	94.7%	8	2	25.0%	88.9%	-2.7%	9	
9	3	5	6	九州大学歯学部	64	55	85.9%	59	52	88.1%	5	3	60.0%	93.2%	-7.2%	9	
5	5	6	7	長崎大学歯学部	58	49	84.5%	47	43	91.5%	11	6	54.5%	82.0%	2.5%	9	
6	5	7	8	北海道大学歯学部	64	54	84.4%	53	48	90.6%	11	6	54.5%	83.1%	1.3%	10	
8	7	8	9	新潟大学歯学部	53	44	83.0%	45	40	88.9%	8	4	50.0%	83.3%	-0.3%	9	
4	10	9	12	鹿児島大学歯学部	62	50	80.6%	50	46	92.0%	12	4	33.3%	75.4%	5.2%	12	
11	3	10	15	岡山大学歯学部	68	52	76.5%	58	46	79.3%	10	6	60.0%	85.5%	-9.0%	16	
10	9	11	17	徳島大学歯学部	71	53	74.6%	54	45	83.3%	17	8	47.1%	73.3%	1.3%	18	
国立計					700	589	84.1%	597	536	89.8%	103	53	51.5%				
				18	九州歯科大学	102	75	73.5%	88	71	80.7%	14	4	28.6%	86.5%	-13.0%	27
公立計					102	75	73.5%	88	71	80.7%	14	4	28.6%				
私立(17)			全国順位	大学名	総数			新卒			既卒			104回合格率(総数)	前回との比較	国試浪人	
新卒順位	既卒順位	私立総数順位			受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率				
1	1	1	1	東京歯科大学	152	148	97.4%	128	126	98.4%	24	22	91.7%	82.6%	14.8%	4	
3	4	2	10	日本歯科大学	139	115	82.7%	111	97	87.4%	28	18	64.3%	76.5%	6.2%	24	
2	3	3	11	日本大学松戸歯学部	171	140	81.9%	105	93	88.6%	66	47	71.2%	72.8%	9.1%	31	
5	5	4	13	昭和大学歯学部	124	97	78.2%	97	80	82.5%	27	17	63.0%	76.8%	1.4%	27	
4	6	5	14	愛知学院大学歯学部	158	123	77.8%	125	104	83.2%	33	19	57.6%	79.0%	-1.1%	35	
11	2	6	16	日本大学歯学部	184	138	75.0%	131	100	76.3%	53	38	71.7%	65.2%	9.8%	46	
8	9	7	19	明海大学歯学部	136	96	70.6%	95	76	80.0%	41	20	48.8%	76.2%	-5.7%	40	
13	7	8	20	福岡歯科大学	136	91	66.9%	95	69	72.6%	41	22	53.7%	67.2%	-0.3%	45	
12	10	9	21	日本歯科大学新潟生命歯学部	100	66	66.0%	69	51	73.9%	31	15	48.4%	66.3%	-0.3%	34	
9	11	10	22	朝日大学歯学部	193	126	65.3%	110	87	79.1%	83	39	47.0%	59.3%	6.0%	67	
6	14	11	23	北海道医療大学歯学部	103	67	65.0%	62	51	82.3%	41	16	39.0%	63.5%	1.6%	36	
7	15	12	24	鶴見大学歯学部	180	115	63.9%	107	87	81.3%	73	28	38.4%	64.3%	-0.4%	65	
14	8	13	25	神奈川歯科大学	143	88	61.5%	88	61	69.3%	55	27	49.1%	66.9%	-5.3%	55	
10	12	14	26	岩手医科大学歯学部	141	82	58.2%	53	41	77.4%	88	41	46.6%	52.3%	5.9%	59	
15	13	15	27	奥羽大学歯学部	123	70	56.9%	71	48	67.6%	52	22	42.3%	62.7%	-5.8%	53	
16	16	16	28	大阪歯科大学	157	77	49.0%	100	64	64.0%	57	13	22.8%	66.3%	-17.2%	80	
17	17	17	29	松本歯科大学	183	60	32.8%	78	39	50.0%	105	21	20.0%	41.6%	-8.8%	123	
私立計					2523	1699	67.3%	1625	1274	78.4%	898	425	47.3%				
					認定及び予備試験	1	1	100.0%	1	1	100.0%	0	0	0.0%			
総合計					3,326	2,364	71.1%	2,311	1,882	81.4%	1,015	482	47.5%				

平成24年度編入・新入生名簿

平成24年度歯学部編入学生名簿

平成24年4月

工藤夏織	小泉浩二	田中尚樹	東山瑞貴
------	------	------	------

以上4名

平成24年度新入生名簿

平成24年4月

東根まりい	菅亜莉紗	砂田咲子	東兼司
安宅賢二郎	北原大奨	高橋昭夫	平山友望
石井偉士	後藤充記	田口美加	松浦裕
石川雄大	近藤諭利佳	丹治怜史	三浦詩織
遠藤海	佐々木開人	富山圭輔	三浦誠貴
大宮賢人	佐藤栄美	中居貴大	宮下麻衣子
片山泰明	嶋村彩水	中村友宣	八嶋一輝
金子華子	鈴木沙季	芳賀俊介	吉田結実子
川越恭平	鈴木莉絵	馬場陽久	

以上35名

大 学 役 職 員 名 簿

職 名	氏 名
理 事 長 ・ 学 長	小 川 彰
副 学 長	祖父江 憲 治
医 学 部 長	小 林 誠一郎
歯 学 部 長	三 浦 廣 行
薬 学 部 長	二 井 將 光
共 通 教 育 セ ン タ ー 長	高 橋 敬
図 書 館 長	武 田 泰 典
図 書 館 分 館 長	松 政 正 俊
学 生 部 長	赤 坂 俊 英
学 生 副 部 長	小豆嶋 正 典
学 生 副 部 長	佐 塚 泰 之
学 生 副 部 長	作 山 正 美
附 属 病 院 長	酒 井 明 夫
附 属 病 院 副 院 長	佐 藤 讓
附 属 病 院 副 院 長	藤 岡 知 昭
附 属 病 院 副 院 長	江 原 茂
附属病院副院長・循環器医療センター長	岡 林 均
附属病院副院長・歯科医療センター長	杉 山 芳 樹
附 属 花 巻 温 泉 病 院 長	猪 又 義 男
岩手県高度救命救急センター長	遠 藤 重 厚
附属PET・リニアック先端医療センター長	中 村 隆 二
医 療 専 門 学 校 長	三 浦 廣 行
事 務 局 長	高 橋 俊 雄

歯学部同窓会役員名簿

(H22. 7. 1～H25. 6. 30)

会 長	城 茂 治	(歯7・学内)	
副 会 長	星 加 修 一	(歯6・道央)	事務管理部長
	村 上 正 博	(歯6・宮城県)	会計部長
常任理事	佐 藤 忠 朋	(歯7・岩手県)	庶務部長
	小豆嶋 正 典	(歯8・学内)	
	田 中 英 一	(歯8・東京都)	渉外部長
	山 田 芳 夫	(歯3・青森県)	
	伊 藤 修	(歯5・秋田県)	
	水 城 春 美	(歯5・学内)	
	中 野 廣 一	(歯6・岩手県)	学術研修部長
	長 谷 剛 史	(歯7・宮城県)	
	斎 藤 純 一	(歯11・山形県)	庶務部副部長
	大 槻 清 隆	(歯12・福島県)	事務管理部副部長
理 事	小山田 勇 樹	(歯15・岩手県)	会計部副部長
	三 善 潤	(歯15・岩手県)	広報部長
	神 垣 博 義	(歯6・東京都)	渉外部副部長
	内 山 繁由樹	(歯7・青森県)	
	大 川 隆 史	(歯8・埼玉県)	
	数 寄 孝	(歯8・茨城県)	
	塩 山 司	(歯8・岩手県)	学術研修部副部長
	中 谷 敏 恭	(歯8・神奈川県)	
	柳 治 夫	(歯8・兵庫県)	渉外部副部長
	五月女 大 介	(歯9・栃木県)	学術研修部副部長
	吉 村 宅 弘	(歯12・愛 岐)	
	兎 玉 厚 三	(歯14・岩手県)	渉外部副部長
	平 尾 慶 太	(歯14・広島県)	
	斎 藤 正 人	(歯16・群馬県)	
	千 田 弥栄子	(歯22・学内)	
監 事	佐々木 寛 成	(歯25・宮城県)	
	岡 田 伸 男	(歯28・学内)	
	猪苗代 盛 昭	(歯1・宮城県)	
	長 門 孝 次	(歯6・大阪府)	
	箱 崎 守 男	(歯1・岩手県)	
相 談 役	菅 原 教 修	(歯1・岩手県)	
	藤 田 達 夫	(歯1・埼玉県)	

歯学部同窓会支部役員名簿

道央支部

支部長 箱木 孝則 (11期)
 副支部長 阿部 年秀 (13期)
 副支部長 太田 陽一 (14期)
 専務理事 新出 英幸 (12期)
 連絡先 〒002-8071 札幌市北区
 あいの里1条4-9-17
 にいで歯科医院
 TEL011-778-6000
 評議員 箱木 孝則 (11期)
 評議員 新出 英幸 (12期)
 評議員 阿部 年秀 (13期)
 予備評議員 玄番 依子 (5期)
 予備評議員 西村 仁 (11期)
 予備評議員 太田 陽一 (14期)



評議員 石平 洋二 (10期)



釧路支部

支部長 鹿野 洋一 (16期)
 副支部長 佐藤憲太郎 (6期)
 幹事 美濃 優 (6期)
 連絡先 〒085-0061 北海道釧路
 市芦野1-8-1
 美濃歯科
 TEL 0154-37-6707
 評議員 鹿野 洋一 (16期)
 予備評議員 遠藤 甫 (1期)



評議員 木村 英敏 (11期)

評議員 藤田 亮 (12期)

評議員 三浦 一廣 (12期)

予備評議員 工藤 淳治 (12期)

予備評議員 北村 靖 (16期)

予備評議員 滝谷 英三 (19期)



学内支部

支部長 城 茂治 (7期)

評議員 八木 實 (6期)

評議員 八重柏 隆 (15期)

評議員 八木 正篤 (17期)

評議員 武部 純 (20期)

予備評議員 久慈 昭慶 (15期)



函館支部

支部長 永坂 信 (7期)
 副支部長 中塚 道郎 (10期)
 副支部長 木葉 篤 (12期)
 幹事長 沢木 健 (17期)
 連絡先 〒041-0821 北海道函館
 市港町2-10-20
 沢木歯科医院
 TEL 0138-43-4618
 評議員 木葉 篤 (12期)
 予備評議員 永坂 信 (7期)



十勝支部

支部長 河俣 良文 (1期)
 副支部長 船津三四郎 (5期)
 幹事長 齊藤 憲生 (8期)
 連絡先 〒080-0019 北海道帯広
 市西9条南13-4-4
 斉藤歯科医院
 TEL 0155-23-8110
 評議員 齊藤 憲生 (8期)
 予備評議員 斎藤 恒夫 (22期)



岩手県支部

支部長 岩渕 安信 (4期)
 副支部長 畠山 良彦 (8期)
 副支部長 岩本 一夫 (9期)
 専務理事 佐藤 忠朋 (7期)
 連絡先 〒028-3601 岩手県紫波
 郡矢巾町高田11-1-3
 佐藤歯科医院
 TEL 019-697-7250

評議員 岩渕 安信 (4期)

評議員 中屋敷 修 (6期)

評議員 菊地 博 (18期)

評議員 黒田 直寿 (18期)

評議員 鈴木洋之助 (18期)

評議員 和田 武彦 (21期)

評議員 川村 英幹 (25期)

予備評議員 熊谷 哲也 (24期)

予備評議員 西郷 史郎 (24期)

予備評議員 小原 賢一 (25期)

予備評議員 工藤 努 (25期)

予備評議員 上原 豊 (26期)

青森県支部

支部長 山田 芳夫 (3期)
 副支部長 内山繁由樹 (7期)
 副支部長 松尾 芳明 (8期)
 副支部長 三浦 一廣 (12期)
 専務理事 滝谷 英三 (19期)
 連絡先 〒030-0966 青森市花園
 2-21-1
 たきや歯科医院
 TEL 017-742-0939

道北支部

支部長 石平 洋二 (10期)
 幹事長 品川 拓人 (13期)
 〒070-8045 北海道旭川
 市忠和5条6-2-14 SKビ
 ルマンション1F
 品川歯科医院
 TEL 0166-62-0303

予備評議員 齋藤 雅人 (26期)
予備評議員 高橋 賢司 (26期)



秋田県支部

支部長 井関 時男 (4期)
副支部長 菅原 栄悦 (8期)
副支部長 阿部 忠一 (10期)
副支部長 石田 達郎 (11期)
専務理事 立花 透 (15期)
連絡先 〒010-0022 秋田市橋山
南中町9-22
立花歯科医院
TEL 018-833-3885
評議員 船木 康博 (10期)
評議員 小西 一峰 (11期)
評議員 柴田 貞彦 (15期)
予備評議員 守口 修 (7期)
予備評議員 鈴木 明彦 (15期)
予備評議員 川原田 啓 (17期)



宮城県支部

支部長 村上 正博 (6期)
副支部長 田熊 和夫 (7期)
副支部長 長谷 剛史 (7期)
副支部長 長田 純一 (11期)
副支部長 菊地 賢 (14期)
専務理事 杉山 豊 (18期)
連絡先 〒980-0011 仙台市青葉
区上杉4-1-47
杉山歯科医院
TEL 022-222-2898
評議員 色川 俊則 (5期)
評議員 羽田野 明 (5期)
評議員 田熊 和夫 (7期)
評議員 小田島正博 (12期)
評議員 川口 剛 (17期)
予備評議員 大友 廣雄 (8期)
予備評議員 鈴木 健一 (8期)
予備評議員 渋井 発 (10期)

予備評議員 大山 治 (11期)
予備評議員 長田 純一 (11期)



山形県支部

支部長 斎藤 純一 (11期)
副支部長 海老名宥充 (10期)
副支部長 土屋 衛 (13期)
常任幹事 日塔 睦雄 (18期)
連絡先 〒995-0111 山形県村山
市大久保甲563-1
にっとう歯科医院
TEL 0237-54-2548
評議員 海老名宥充 (10期)
評議員 土屋 衛 (13期)
予備評議員 奥山 祥充 (12期)
予備評議員 日塔 睦雄 (18期)



福島県支部

支部長 田代 直也 (8期)
副支部長 國崎 幸史 (10期)
副支部長 加藤 悟郎 (11期)
専務理事 遠藤 正道 (12期)
連絡先 〒963-0102 福島県郡山
市安積町笹川字北向6-
24
安積台遠藤歯科医院
TEL 024-945-4118
評議員 田代 直也 (8期)
評議員 國崎 幸史 (10期)
予備評議員 加藤 悟郎 (11期)
予備評議員 遠藤 正道 (12期)



茨城県支部

支部長 大塚 誠 (9期)
副支部長 小川 修二 (10期)
副支部長 戒田 敏之 (11期)
庶務 阿部 英一 (18期)

連絡先 〒319-2144 茨城県常陸
大宮市泉445-3
阿部歯科クリニック
TEL 0295-52-5533

評議員 大塚 誠 (9期)
予備評議員 小川 修二 (10期)



栃木県支部

支部長 五月女大介 (9期)
副支部長 清水 彰 (10期)
副支部長 生井 俊一 (12期)
専務理事 手塚 茂 (21期)
連絡先 〒320-0863 宇都宮市操
町7-10
てづか歯科医院
TEL 028-639-2332
評議員 生井 俊一 (12期)
予備評議員 野尻 郁夫 (15期)



群馬県支部

支部長 石北 裕 (3期)
副支部長 山田 哲司 (3期)
専務理事 大美賀 優 (7期)
連絡先 〒373-0024 群馬県太田
市上小林235-1
大美賀歯科医院
TEL 0276-25-8148
評議員 石北 裕 (3期)
予備評議員 鈴木 敏正 (12期)



埼玉県支部

支部長 佐々木 雄一 (2期)
副支部長 曾根原 勉 (6期)
評議員 佐々木 雄一 (2期)
評議員 曾根原 勉 (6期)
予備評議員 利根川 真一 (7期)
予備評議員 高野 章 (9期)

千葉県支部

支部長 萩原 研一 (1期)
副支部長 北村 渉 (3期)
副支部長 尹 錫哲 (4期)
専務理事 伊東総一郎 (21期)
連絡先 〒286-0013 千葉県成田市美郷台2-26-27 イワダテビル3F
さくら歯科クリニック
TEL 0476-24-5454

評議員 萩原 研一 (1期)
評議員 小林 賢士 (15期)
予備評議員 上原 公一 (2期)
予備評議員 牛尾 均 (3期)



東京都支部

支部長 神垣 博義 (6期)
副支部長 田中 英一 (8期)
副支部長 沼口 隆二 (8期)
専務理事 松村 猛 (14期)
連絡先 〒204-0004 東京都清瀬市野塩3-12-5
松村歯科医院
TEL 042-491-8849

評議員 小室 昭夫 (1期)
評議員 安成 宗一 (2期)
評議員 水野 重美 (8期)
予備評議員 近藤 秀男 (3期)
予備評議員 沼口 隆二 (8期)
予備評議員 村上 正幸 (16期)



神奈川県支部

支部長 森戸 弘行 (11期)
副支部長 中沢真一郎 (14期)
副支部長 浅川 和也 (21期)
専務理事 伴場 幸信 (13期)
連絡先 〒212-0023 神奈川県川崎市幸区戸手本町1-44-5 ステート川崎1F

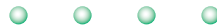
伴場歯科医院
TEL 044-549-3918
評議員 高田 泉 (8期)
評議員 杉山 裕 (9期)
予備評議員 笠原 斉 (1期)
予備評議員 樺島 史朗 (2期)



山梨県支部

支部長 中込 和雄 (10期)
副支部長 中村貴美男 (11期)
専務理事 早川 輝 (20期)
連絡先 〒405-0005 山梨県山梨市小原東112-1
はやかわ歯科医院
TEL 0553-23-4455

評議員 中込 和雄 (10期)
予備評議員 中村貴美男 (11期)



長野県支部

支部長 島田 隆夫 (6期)
副支部長 笠原 幹雄 (7期)
副支部長 上島真二郎 (7期)
専務理事 都筑 文男 (9期)
連絡先 〒399-0701 長野県塩尻市大字広丘吉田2902-9
つづく歯科医院
TEL 0263-86-3388

評議員 島田 隆夫 (6期)
予備評議員 笠原 幹雄 (7期)



新潟県支部

支部長 本間 哲雄 (5期)
副支部長 五十嵐一男 (6期)
専務 佐久間英治 (12期)
連絡先 〒950-1115 新潟市西区烏原大明2640-1

佐久間歯科医院
TEL 025-378-7788
評議員 本間 哲雄 (5期)
予備評議員 中山 雄二 (14期)



富山県支部

支部長 野田 孫就 (3期)
副支部長 大石 聡 (8期)
専務理事 津田 淳 (30期)
連絡先 〒932-0115 富山県小矢部市津沢1-44
歯科津田医院
TEL 0766-61-4771

評議員 野田 孫就 (3期)
予備評議員 湯口 正治 (17期)



北陸支部

支部長 家城 正 (8期)
副支部長 石田 皎 (8期)
副支部長 九良賀野進 (8期)
専務理事 牧野 邦男 (13期)
連絡先 〒920-2142 石川県白山市深瀬新町4
牧野歯科医院
TEL 076-273-0113

評議員 田中 誠 (4期)



静岡県支部

支部長 山田 雅夫 (7期)
庶務 小川 恵治 (13期)
連絡先 〒427-0041 静岡県島田市中河町410
TEL 0547-37-1418

評議員 原田 雅弘 (12期)
評議員 廣瀬 尋範 (31期)
予備評議員 斉藤 衛 (12期)

愛岐支部

支部長 柴田 輝郎 (1期)
副支部長 清 克行 (3期)
副支部長 北山 真悟 (5期)
専務理事 吉村 宅弘 (12期)
連絡先 〒472-0012 愛知県知立
市八ツ田町1-2-1
八ツ田歯科
TEL 0566-83-5550
評議員 青島 忍 (7期)
予備評議員 山家 誠 (15期)



近畿地区支部

支部長 難波 和之 (1期)
連絡先 〒557-0055 大阪市西成
区千本南1-3-14-101
難波歯科医院
TEL 06-6659-0118
副支部長 江上 一郎 (3期)
評議員 山崎 直 (9期)
予備評議員 江上 一郎 (3期)



大阪府支部

会長 片山 俊博 (7期)
副会長 落合 伸行 (10期)
副会長 原田 善彦 (11期)
連絡先 〒579-8045 大阪府東大
阪市本町7-12
原田歯科医院
TEL 0729-82-1203
専務 山本 隆晴 (22期)
評議員 片山 俊博 (7期)
予備評議員 原田 善彦 (11期)



兵庫支部

支部長 柳 治夫 (8期)
副支部長 浜口 雅明 (10期)

副支部長 坂井 諭 (18期)
専務理事 村松 弘康 (25期)
連絡先 〒662-0954 兵庫県西宮
市上葭原町5-22
むらまつ歯科医院
TEL 0798-38-4443
評議員 村松 弘康 (25期)
予備評議員 坂井ひろみ (17期)



岡山県支部

支部長 池田 泰章 (11期)
専務理事 近藤 康弘 (12期)
連絡先 〒710-0023 岡山県倉敷
市帯高617-16
近藤歯科クリニック
TEL 086-428-8143
評議員 竹下 信義 (4期)
予備評議員 小坂 晃 (11期)



広島県支部

支部長 平尾 慶太 (14期)
副支部長 長崎 昭憲 (3期)
金田 竜典 (22期)
専務理事 山口 純生 (25期)
連絡先 〒739-2403 広島県東広
島市安芸津町風早字江
川1118-1
マイ歯科
TEL 0846-45-6927
評議員 長崎 昭憲 (3期)
予備評議員 江島 恒章 (7期)



徳島県支部

支部長 秋田 一郎 (9期)
副支部長 益田 忠幸 (12期)
連絡担当幹事 益田 忠幸 (12期)
連絡先 〒770-8024 徳島市西須

賀町下中須13-48
益田歯科医院
TEL 088-669-2567
評議員 井上 正仁 (10期)
予備評議員 諸谷 雅裕 (14期)



香川・愛媛・高知支部

支部長 前田健一郎 (1期)
専務理事 江淵 有三 (11期)
連絡先 〒781-1102 高知県土佐
市高岡町乙8-1
江淵歯科診療所
TEL 088-852-6480
評議員 前田健一郎 (1期)
予備評議員 藤本 庸介 (11期)



長崎県支部

支部長 山部 一実 (8期)
専務理事 牟田 直竹 (10期)
連絡先 〒852-801 長崎市梁川
町4-12 梁川ビル1F
牟田歯科医院
TEL 095-862-887
評議員 山部 一実 (8期)
予備評議員 牟田 直竹 (10期)

学 術 研 修 部 員 名 簿

	部 長	6	中野 廣一	開業		16	高瀬 真二	開業
	副部長	8	塩山 司	友愛病院		16	高橋 秀典	開業
		9	五月女大介	開業		17	川嶋 敏宏	勤務
		10	南館 祐二	開業		19	東海林 理	口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野
		17	八木 正篤	口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野		19	間山 寿代	口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野
相談役		1	三條 勲	開業		20	大平 明範	雄勝中央病院
		2	米内 正	開業		20	黒澤 正雄	開業
		4	三浦 廣行	口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野		20	梶村 幸市	開業
		5	水城 春美	口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野		21	平川 英司	開業
		6	武田 泰典	病理学講座 病態解析学分野		21	古町 瑞郎	開業
		7	城 茂治	口腔顎顔面再建学講座 歯科麻酔学分野		22	白倉 義之	開業
		8	小豆嶋正典	口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野		22	千田弥栄子	歯科保存学講座 う蝕治療学分野
		9	藤村 朗	解剖学講座 機能形態学分野		22	松浦 政彦	開業
		15	八重柏 隆	歯科保存学講座 歯周療法学分野		24	菊池 和子	口腔保健育成学講座 障害者歯科学分野
部員		7	大林勢津子	開業		25	金村 清孝	補綴・インプラント 学講座
		14	児玉 厚三	開業		30	小林 琢也	補綴・インプラント 学講座
		15	小山田勇樹	開業		33	佐々木大輔	歯科保存学講座 歯周療法学分野
		16	遠藤 義樹	開業		34	阿部 亮輔	口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野
		16	岡口 守雄	開業				

広 報 部 員 名 簿

	部 長	15	三善 潤	開業				
	副部長	22	坂本 望	口腔顎顔面再建学講座			歯科麻酔学分野	
	部 員	24	熊谷 哲也	開業				
		24	西郷 史郎	開業				
		25	浅野 明子	歯科保存学講座			う蝕治療学分野	
		25	金村 清孝	補綴・インプラント学講座				
		27	南 健太郎	口腔医学講座			予防歯科学分野	
		29	山田ありさ	薬理学講座			病態制御学分野	
		30	松嶋 拓	開業				

——同窓生の皆様にご存知ですか——

岩手医科大学歯学部同窓会 休業時歯科医師派遣要項

岩手医科大学歯学部同窓会と岩手医科大学附属病院歯科医療センターとは、歯科医師の派遣については、次の要項によりこれを行うものとする。

(派遣要項)

第1条 岩手医科大学歯学部同窓会は、その会員が傷害、傷病等により歯科診療業務の履行が困難となった場合、歯科医師（以下「派遣歯科医師」という。）の派遣を、岩手医科大学附属病院歯科医療センターに要請することができるものとする。

(派遣歯科医師)

第2条 派遣歯科医師については、岩手医科大学歯学部同窓会会長の要請により、岩手医科大学附属病院歯科医療センターが選定する。

(派遣期間)

第3条 派遣期間は原則として2週間以内とする。ただし事情を考慮し可能な限り柔軟に対応する。

(就業時間)

第4条 派遣歯科医師の就業時間は、原則として午前9時から12時、午後2時から5時までとするが、細部についてはその都度打合わせをして決めるものとする。

(医療相談についての責任)

第5条 医療過誤については、派遣依頼元の歯科医師、又は医療機関と岩手医科大学歯学部同窓会が共同責任で解決するものとし、派遣歯科医師には金銭その他、一切の負担を負わせないものとする。

(派遣歯科医師の経費)

- 第6条
1. 派遣歯科医師が、業務遂行上に必要な経費は、派遣要請をした歯学部同窓会の負担とする。
 2. 派遣歯科医師への報酬は、当分の間、以下の通りとする。

大学卒業2年未満の歯科医師は、1日当たり	25,000円（税込）
大学卒業2年以上の歯科医師は、1日当たり	35,000円（税込）

とする。
 3. 前項の報酬の他、交通費の実費を負担する。
 4. 報酬等の支払は、岩手医科大学歯学部同窓会より、派遣終了後2週間以内に派遣歯科医師に支払うものとする。

(派遣の中止)

第7条 本要項に違反する行為があった場合、岩手医科大学附属病院歯科医療センターは派遣を中止することができる。

(その他)

第8条 本要項に定めない事項および、疑義を生じたときは岩手医科大学歯学部同窓会と岩手医科大学附属病院歯科医療センターにおいて協議し、決定する。

(附 則)

この要項は、平成8年9月3日から実施するものとする。

岩手医科大学歯学部同窓会HP

岩手医科大学歯学部同窓会HP公開中です。
ぜひご覧下さい。

<http://www.imu-dent-aa.com/>

お

知

ら

せ

■ 第43学術研修会

日 時 平成23年12月9日（日） 9：50～15：15

会 場 岩手県歯科医師会館8020プラザ

講 演

I. 10：00～12：00 13：15～15：15

講師 寺内 吉継（てらうち・よしつぐ）先生

（神奈川県大和市開業/歯内療法専門開業医/東京医科歯科大学非常勤講師）

演題 グローバルスタンダードのハイエンドを知る

II. ランチョンセミナー 12：15～13：00

講師 佐藤 和朗（さとう・かずろう）先生

（岩手医科大学歯学部 口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野 講師）

演題 歯科医療からみた睡眠時無呼吸症候群

■ 会 員 訃 報（卒業期順・平成23年8月31日以降）

清水 明 先生（2期）（平成24年5月18日逝去） 大島 敏 先生（8期）（平成23年11月8日逝去）

水口 博 先生（3期）（平成23年9月8日逝去） 大沢 俊明 先生（9期）（平成24年4月14日逝去）

山内 明善 先生（5期）（平成24年5月7日逝去）

謹んで心よりお悔やみ申し上げます。

岩手医科大学歯学部を卒業して10年が経とうとしております。

三善常任理事のもと、歯学部本部同窓会・広報部員として活動しております。卒業してまだ10年と思っておりましたが、私が教わった先生方もどんどん退官され、大学の矢巾移転、ハーバード大学と提携による歯学部改革などなど諸先生方におかれましても現在の母校の状況がわからなくなっているのではないのでしょうか。

広報部員としては少しでも母校の状況を伝えることが出来ればと頑張っております。

最後に、お忙しい中にも拘らず原稿をお寄せくださった先生方にこの場をお借りしてお礼申し上げます。

今後とも同窓会へのご協力のほどよろしくお願いいたします。

33期 松嶋 拓

岩手医科大学歯学部同窓会事務局連絡先

〒020-8505

岩手県盛岡市中央通1-3-27

岩手医科大学内（循環器センター10階）

TEL：019-651-5111（内7004） FAX：019-624-8380

E-mail：info@keiryokai.gr.jp

印刷所：河北印刷（株）





Thinking ahead. Focused on life.

Soaric

人を大切にしたデザインとテクノロジーから生まれました

The New PdW Style

直感的で自然な動作での診療を可能にする、先進のトレーシステム。
ユニットへの組み込みが可能な、マイクロスコープと根管長測定機器。
小型ボディに根管治療機能が搭載された、新開発マイクロモーター。
そのディテールに至るまで一貫して表現された、洗練のデザイン。

Debut

発売

株式会社 **モリタ**

大阪本社 大阪府吹田市垂水町3-33-18
〒564-8650 TEL 06-6380-2525
東京本社 東京都台東区上野2-11-15
〒110-8513 TEL 03-3834-6161

製造販売・製造

株式会社 **モリタ製作所**

本社工場 京都府京都市伏見区東浜町680
〒612-8533 TEL 075-611-2141
久御山工場 京都府久世郡久御山町大字市田小学新珠城190
〒613-0022 TEL 0774-43-7594

販売名: ソアリック

一般的名称: 歯科用ユニット

機器の分類: 管理医療機器(クラスII)

特定保守管理医療機器

医療機器認証番号: 222ACBZX00016000

www.dental-plaza.com

さあ、あなたも、 ハッピーボーナス！

1年後がお楽しみ！ぜひご入会ください！

【川徳友の会会員募集中】

「川徳友の会」は、お好きなコースを選んで、12か月間毎月お積立していただくと、満期時に、お積立で総額「1か月分のお買物ボーナス券」をプラスしてお受け取りいただけます。

【ご入会・お問合せは】 川徳6F/友の会サロン(内線)3635-3636

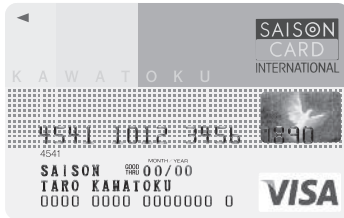
【12か月のお積立額に】
月々 3,000円 積立コース
 12か月後満期お渡し額 **39,000円**
 プラス 3,000円のお買物ボーナス券をプレゼント!
 ●川徳友の会お買物券……36,000円
 ●お買物ボーナス券……3,000円

【12か月のお積立額に】
月々 10,000円 積立コース
 12か月後満期お渡し額 **130,000円**
 プラス 10,000円のお買物ボーナス券をプレゼント!
 ●川徳友の会お買物券……120,000円
 ●お買物ボーナス券……10,000円

メリットいっぱい、二つのカード。

【カワトクカード会員募集中】

川徳はもちろん、国内・海外で幅広くご利用いただけるカードです。川徳でのクレジットご利用で、カワトクポイントに加え セゾン永久不減ポイントがダブルで貯まります。



【カワトクPカード】

川徳でお使いいただける現金専用カードです。クレジット機能はございません。



お客様に夢と健康をお届けします



株式会社 岩手ホテル&リゾート
 盛岡グランドホテル 安比高原

豊かさと調和

明るい歯科医療環境づくりの
お役に立ちます。

歯科医療機器材総合商社 **ササキ株式会社**



<http://www.sasaki-kk.co.jp>

盛岡支店 〒020-0851 盛岡市向中野3-28-21 ☎(019)636-2800 FAX(019)636-2801

盛岡秋田店 〒010-0944 秋田市川尻若葉町4-37 ☎(018)862-0608 FAX(018)823-0933

本社 〒440-8518 豊橋市八町通5-7 ☎(0532)55-6811 FAX(0532)55-5658

〈支店・営業所〉札幌、旭川、青森、八戸、函館、盛岡、秋田、仙台、郡山、山形、新潟、長岡、東京、本郷、池袋、東京北、柏、埼玉、千葉、八王子、川崎、横浜、厚木、甲府、松本、長野、沼津、静岡、浜松、豊橋、岡崎、名古屋、名古屋駅前、名古屋南、一宮、岐阜、津、四日市、大阪、高槻、堺、神戸、姫路、福岡、鹿児島、熊本

医療廃棄物回収、貴金属分析買取 当社にお任せください。

私たちの運んでいるものはただの廃棄物ではありません。資源と自然環境に戻るための「エコ」を運んでいるのです。廃棄物を最小限にすること。捨てるのではなく再生させること。わたしたちは「環境先進企業」を目指して資源循環社会に取り組んでいます。

医療廃棄物収集運搬

貴金属含有物の分析買取

蛍光管の販売・賃貸・処分

レントゲンフィルム処分

機密書類リサイクル

医療機器類リサイクル

◎ 詳しくはお問合せください。

貴金属高価買取
いたします!

ニッコフ・ファーマ株式会社

〒029-1111 岩手県一関市千厩町奥玉字天ヶ森75番6

TEL 0191-56-2601(代) FAX 0191-56-2619



わたしたちは「医療を支える廃棄物回収」で復興を支援します。

電子マニフェストで
法令順守と
事務処理の合理化を。

経済的に
でも
ちょっと地球にいいこと。

ISO14001 認定取得
岩手県基準適合産業廃棄物処理業者
いわて地球環境にやさしい事業所

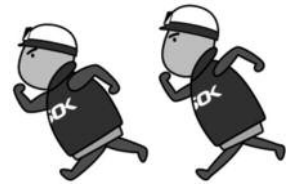
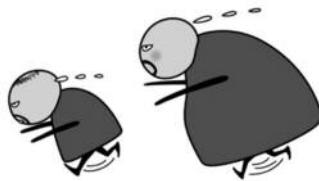


URL <http://www.nikkofm.co.jp>

ALways Security OK

 **ALSOK**


セキュリティはALSOK



ALSOK岩手株式会社

盛岡市津志田西一丁目24番地15号

019-631-3111

 0120-30-5915

<http://www.alsok-iwate.co.jp>

【支社】盛岡、北上、奥州、一関、釜石

【支店】盛岡北、盛岡南、二戸、宮古

【営業所】花巻、久慈、大船渡

OLD & NEW

創業90余年の「歴史と実績」

そして次代をみつめて…

後藤歯科商店は、歯科材料・器械器具の販売に加え、最も大事なアフターケアにおいても、様々な場面でお客様のサポートをさせて頂いております。

今後も、よりいっそうお客様の立場に立ったハートフルな対応で、ご満足いただける商品とサービスの提供に努めてまいります。



株式会社 後藤歯科商店

本社/本店	福島市中町7-1	TEL 024-522-2755(代)
盛岡店	盛岡市月ヶ丘1丁目26-57	TEL 019-648-0811
横手店	横手市婦気大堤字谷地添99-2	TEL 0182-33-4242
山形店	山形市江南1丁目11-26	TEL 023-684-9236
秋田店	秋田市泉北2丁目3-2	TEL 018-896-0155
会津店	会津若松市真宮新町北3丁目20-4	TEL 0242-93-9201





この手で守る自然と資源

きめ細やかな営業ネットワークで、全国をカバーいたします。

- 貴金属リサイクル
- 医療用廃棄物の無害化処理・リサイクル
- 処理実績報告書の作成サポート
- 電子マニフェストシステム対応

「個別管理システム」が実現した
業界 **No.1** の実績

ISO14001・ISO9001 取得



(社)日本金地金流通協会 正会員

アサヒホールディングス株式会社 東証一部上場:5857

アサヒプリテック株式会社

貴金属事業部

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12 サビアタワー

TEL(03)6270-1831 FAX(03)6270-1825 URL <http://www.asahipretec.com>

■営業所/札幌、青森、仙台、新潟、北関東、関東、横浜、甲府、静岡、名古屋、北陸、大阪、神戸、岡山、広島、四国、福岡、鹿児島、沖縄

ASAHI PRETEC

ウチヤマは2013年春に
おかげさまで創業100周年を迎えます



<http://www.uchiyama-dental.jp>

歯科医療の未来をつくる
株式会社 ウチヤマ

本社/〒980-0013 仙台市青葉区花京院一丁目4番8号
TEL 022-262-6210(代) FAX 022-262-6207
盛岡営業所/〒020-0866 盛岡市本宮六丁目24番43号 1F
TEL 019-635-7750(代) FAX 019-635-7709

すべては徒歩圏内に 絶好のロケーション

JR 盛岡駅に直結のホテルメトロポリタン盛岡 本館
ワンランク上のサービスを提供する NEW WING

2つのホテルを拠点に盛岡駅周辺には大型コンベンションを
開催できる環境が整っています。市内では最大の1500名を
収容可能なコンベンションホールを有するマリオスや500名の
会議が可能なアイーナもホテルから徒歩での移動が可能です。



私たちはホテルならではのおもてなしで
大切なお客様をお迎えいたします



〈本館〉

盛岡駅北口より徒歩1分
客室190室／駐車場530台

〈NEW WING〉

盛岡駅北口より徒歩3分
客室121室／駐車場100台



ホテルメトロポリタン盛岡

TEL : 019-625-1211 (大代表)
<http://www.metro-morioka.co.jp>

本館 / 盛岡市盛岡駅前通 1-44
NEW WING / 盛岡市盛岡駅前北通 2-27



We try best!
For healthy and white teeth



株式会社 **岩瀬歯科商会**

〒110-0016 東京都台東区台東 2-23-7

宇都宮支店 水戸支店 野木支店 前橋支店 福島支店 上野支店 松戸支店 千葉支店 世田谷支店 横浜支店 大宮支店 東大和支店

盛岡営業所

〒020-0125 盛岡市上堂 1-6-5

TEL 019 (648) 2777 Fax 019 (648) 2778



SPICA 26P

印刷技術の粋を集めて
あらゆるユーザーニーズにお応えします

いいものを創りたい
それが私たちの願いです。



KAHOKU

河北印刷 株式会社
KAHOKU PRINTING

〒020-0015 盛岡市本町通2丁目8-7 ☎(019)623-4256(代) FAX(019)623-0976
E-mail / office@kahoku-ipm.jp

醫
藥
市

